

## 平成25年度 鳥取県環境白書

### 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-1 環境教育・学習の推進

## 01 鳥取県版環境管理システム(TEAS)普及事業

### 施策

#### 1 事業の目的

鳥取県版環境管理システム審査登録制度(愛称:TEAS(テス))の普及により、県内の事業者、団体等の各種組織における環境配慮活動を推進する。

#### 2 事業の内容

事業者等が構築して取り組む環境管理システムのTEAS規格への適合性を審査し、登録する。

TEAS規格の種類等については、次表のとおり。

#### ○鳥取県版環境管理システムの種類

	TEAS 1種	TEAS 2種	TEAS 3種
対象	高度な環境管理を行う企業等	I種以外の企業等、高等学校	家庭・地域、小・中学校・特別支援学校、店舗・小規模事業所
登録	鳥取県	鳥取県	鳥取県
審査	鳥取県の認定する審査機関	鳥取県の認定する審査機関	鳥取県
経費	有料	有料	無料
有効期間	1期1年(更新可)	1期1年(更新可)	1期3年(更新可)
その他	ISO14001へ移行を目指す企業等に有効	ほとんどの組織で導入可能な環境管理システムとして有効	EMSを体験し、環境問題への理解を深めるために有効

#### 【1種】

- ・平成19年度から、審査登録については鳥取県の認定する審査登録機関が有料で実施。
- ・平成23年度から、要綱の改正に伴い鳥取県の認定する審査機関が審査を実施し、県が登録。
- ・平成23年度から、KES(京都・環境マネジメントシステム・スタンダード)と協働認証を開始。

#### 【2種】

- ・平成22年度までは鳥取県が認定する審査機関に委託し、無料で実施。
- ・平成23年度から、要綱の改正に伴い鳥取県の認定する審査機関が有料で審査を実施し、県が登録。
- ・平成23年度から、KES(京都・環境マネジメントシステム・スタンダード)と協働認証を開始。

#### 【3種】

- ・店舗・小規模事業所、家庭・地域、小中学校での取り組みを推進。
- ・家庭については、「わが家のエコ録」及び市町村の環境家計簿に取り組んでいる家庭をⅢ種としてみなす。
- ・学校については県・市町村教育委員会と連携して普及に努める。

#### 【支援制度】

OTEASに取り組む学校については、環境学習等を支援するため、とっとり環境教育・学習アドバイザーを派遣

### 3 事業の現状及び課題

平成25年度末のTEAS登録件数は1,280件  
登録件数の伸び悩みが見られるが、認定数は年々増加しており、TEAS制度を通じて環境教育を体系的かつ継続的に実践していく体制づくりを推進している。

### 実績

#### 平成25年度実績

平成25年度は、新たに1種1件、2種1件、3種12件の計14件の登録を行った。

	平成24年度末 登録者数	平成25年度 増加数	平成25年度 辞退数	平成25年度末 登録者数
1種	23	1	1	23
2種	56	1	0	57
3種 (家庭・地域)	20	0	0	20
3種 (学校)	35	0	0	35
3種 (小規模事業所)	355	2	0	357
みなし3種 (わが家のエコ録、 北栄町)	778	10	0	788
合計	1,267	14	1	1,280

#### <TEAS登録者名簿>

[1種名簿](#) [2種名簿](#) 3種名簿(地域・家庭、[学校](#)、[小規模事業所](#))

### 連絡先

生活環境部 環境立県推進課 電話0857-26-7874,7875

### 参考URL

鳥取県環境立県推進課のwebサイトより  
「TEAS(鳥取県版環境管理システム)審査登録制度」

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=17890>

## 平成25年度 鳥取県環境白書

### 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-1 環境教育・学習の推進

## 02 鳥取県環境管理システムの運用～TEAS(鳥取県版環境管理システム)1種認証取得～

### 施策

#### 1 事業の目的

県の事務・事業に係る環境負荷の低減、環境法令等の順守、環境施策の推進等を図るため、鳥取県版環境管理システム(TEAS)1種の規格に沿ったシステムを運用し、継続的な改善を進める。

#### 2 事業の内容

平成12年から運用をしてきたISO14001認証に替えて平成24年12月にTEAS1種の登録を完了。引き続き、県庁組織自らが事業者として環境配慮活動を推進し、環境への負荷の低減を図る。

##### 【取組内容】

- (1) オフィス活動における環境配慮の推進(共通)
- (2) 公共事業・イベント等における環境配慮の推進(該当課)
- (3) 環境基本計画の「とっとり環境イニシアティブプラン」に基づく環境施策の推進(該当課)
- (4) 環境法令等の順守

#### 3 事業の現状及び課題

従来からの環境配慮に対する取組みは後退させることなく全庁において環境管理システムの運用を図る。

### 実績

平成12年から運用をしてきたISO14001認証に替えて平成24年12月にTEAS1種の登録を完了し、平成25年度も審査を受け、登録がなされた。

#### 平成25年度実績

平成25年度の主な取組実績は以下のとおり。

##### 【共通のオフィス目標】

○二酸化炭素排出量の削減(平成27年度までに平成21年度比で-8%)

TEASサイト全体で見ると、平成25年度は平成21年度に比べて16.9%の増加。

東日本大震災の影響等で、電気の二酸化炭素の排出係数が大きくなっていることなども要因の一つであるが、より一層の取組みが必要である。

○可燃ごみの削減(平成27年度までに平成21年度比で-20%)

TEASサイト全体で見ると、平成25年度は平成21年度に比べて12.5%の削減。

平成24年度に比べ1.3%増であり今後も一層の取組みが必要である。

○コピー用紙の削減(平成27年度までに平成21年度比で-10%)

TEASサイト全体で見ると、平成25年度は平成21年度に比べて4.1%の削減。

平成24年度に比べ4.1%減であり、このペースで削減が進むよう取り組む。

■ 二酸化炭素排出量実績の推移(H21～H25)

目標：平成27年度までに、平成21年度比で8%削減

	単位(t)					
	H21 実績	H22 実績	H23 実績	H24 実績	H25	
					実績	対H21年度比
本庁サイト	3,122	3,554	3,374	3,175	3,557	113.9(%)
地方機関サイト	2,321	2,828	2,633	2,297	2,807	120.9(%)
TEASサイト(計)	5,443	6,382	6,007	5,472	6,364	116.9(%)

■ 可燃ゴミ排出量の推移(H21～H25)

目標：平成27年度までに、平成21年度比で20%削減

	単位(kg)					
	H21 実績	H22 実績	H23 実績	H24 実績	H25	
					実績	対H21年度比
本庁サイト	24,852	20,507	21,929	24,024	22,485	90.5(%)
地方機関サイト	11,128	7,555	7,541	7,068	8,998	80.9(%)
TEASサイト(計)	35,980	28,062	29,470	31,092	31,483	87.5(%)

■ コピー用紙購入量の推移(H21～H25)

目標：平成27年度までに、平成21年度比で10%削減

	単位(kg)					
	H21 実績	H22 実績	H23 実績	H24 実績	H25	
					実績	対H21年度比
本庁サイト	131,567	126,970	141,698	135,663	132,001	100.3(%)
地方機関サイト	64,700	58,650	57,613	60,590	56,183	86.8(%)
TEASサイト(計)	196,267	185,620	199,311	196,253	188,184	95.9(%)

連絡先

総務部 総務課 総務企画担当 電話0857-26-7773

参考URL

<http://www.pref.tottori.lg.jp/204002.htm>

鳥取県環境立県推進課のwebサイトより「TEAS審査登録制度」

<http://www.pref.tottori.lg.jp/teas/>

## 平成25年度 鳥取県環境白書

2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開  
2-1 環境教育・学習の推進

### 03 県立高等学校での環境教育の推進

---

#### 施策

##### 1 事業の目的

- (1) 県立高等学校の環境教育推進を図る。
- (2) 各学校が企画した環境教育推進活動を支援する。

##### 2 事業の内容

環境教育推進活動への支援  
県立高等学校裁量予算学校独自事業における環境教育に係る事業を促進する。

##### 3 事業の現状及び課題

平成24年度に全県立高校がTEAS2種を取得し、各学校ごとに学校裁量予算を活用した環境教育等を実施している。

#### 実績

全県立高校24校がTEAS2種を取得済み。

#### 連絡先

鳥取県教育委員会事務局 高等学校課 指導担当 電話0857-26-7916

#### 参考URL

鳥取県教育委員会事務局高等学校課のwebサイトより  
高等学校課 県立高等学校における環境教育の取組  
<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=95557>

## 平成25年度 鳥取県環境白書

### 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-1 環境教育・学習の推進

## 04 小・中学校における環境教育の取組

### 施策

#### 1 事業の目的

学校の教育活動全体を通して環境や環境問題に関心を持ち、人間と環境とのかかわりについて理解を深め、環境を大切にすることを育てるとともに、環境保全やよりよい環境の創造のために主体的に行動する実践的な態度や資質、能力を育成する。

#### 2 事業の内容

##### (1) 各教科等における取組

- ・総合的な学習の時間で、「環境」をテーマにした探究活動に積極的に取り組み、地域に根ざした体験活動を重視した実践を展開する。  
(地域の特色や環境を生かすことに配慮する。)
- ・各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動など環境教育に関わる学習内容において、児童生徒の発達段階や教科等の特性に配慮しながら課題解決的な学習を展開する。

##### (2) 児童会活動・生徒会活動、学級活動等における児童・生徒の自主的な環境に配慮した活動

- ・鳥取県版環境管理システム(TEAS3種)認証を取得し、各学校で計画した「環境に配慮した活動」を実施する。
- ・児童会や生徒会の呼びかけで学校全体で特色のある活動に取り組んだり、児童・生徒が学級活動として自主的に環境に配慮した活動に取り組んだりする。

##### (3) 環境教育全体計画の作成による、環境教育の充実をはたらきかける。

##### (4) 関係課と連携し、学校と連携した環境活動(エコアクションの推進 <エコを生活習慣へ～子どもへの意識づけ>)を進める。

#### 3 事業の現状及び課題

【環境教育全体計画の作成状況】(平成24年度末現在)

小学校:91校(67.2%) 中学校25校(41.7%)

【TEAS3種の取得状況】(平成24年度末現在)

小学校:20校(14.9%) 中学校:9校(15.0%)

### 実績

【環境教育全体計画の作成状況】(平成25年度末現在)

小学校:84校(62.7%) 中学校24校(40.7%)

【TEAS3種の取得状況】(平成25年度末現在)

小学校:8校(6.0%) 中学校:3校(5.1%)

### 連絡先

鳥取県教育委員会事務局 小中学校課 指導係 電話0857-26-7915

### 参考URL

# 平成25年度 鳥取県環境白書

## 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-1 環境教育・学習の推進

### 05 幼児・児童向け環境教育の促進

#### 施策

##### 1 事業の目的

- (1)こどもエコクラブの活動支援  
子どもたちの興味や関心に基づいて、自然観察・調査やリサイクル活動、地球温暖化を防ぐ活動など、家庭・学校・地域の中で身近にできる「地球にやさしい活動」に自由に取り組む「こどもエコクラブ」の活動を支援する。
- (2)ちびっこエコスタート事業の推進  
幼児期から環境を大切にする気持ちを育み、環境に配慮した行動のできる人を育成するため、幼稚園・保育所に「ちびエコアドバイザー」を派遣する「ちびっ子エコスタート」事業を推進する。

##### 2 事業の内容

###### (1)こどもエコクラブ活動支援事業

###### ア 補助事業

補助事業	補助事業の内容	補助対象経費等
こどもエコクラブ活動支援補助金	・こどもエコクラブの活動経費に対する市町村の補助事業に助成 ・補助対象経費の限度額：メンバー及びサポーターの人数に700円を乗じた額 ・補助率：1/2	講師謝金及び旅費、図書購入費、材及び消耗品費、使用料賃借料、入館料、通信運搬費、保険料等（食糧費は対象外）

###### イ こどもエコクラブの結成支援

県のホームページを通じて活動内容を紹介するなど、こどもエコクラブの広報、PRを充実させ、登録の推進を図る。

###### ウ こどもエコクラブ活動交流会の実施

こどもエコクラブの交流会を開催し、事例発表や情報交換を通じて活動の活性化を図る。

###### (2)ちびっこエコスタート推進事業

###### ア 取組の手順（年間）

###### (ア)現状把握

(イ)職員・保護者向け環境学習研修会（ちびエコアドバイザー派遣）

(ウ)エコ活宣言の作成・実践

(エ)園児向け環境学習研修会（ちびエコアドバイザー派遣）

(オ)エコ活動

(カ)振り返り

(キ)次年度のエコ活宣言の作成

###### イ 実施体制

鳥取県地球温暖化防止活動推進センターに委託実施。

##### 3 事業の現状及び課題

###### (1)こどもエコクラブ活動支援事業

- ・平成18年度の補助制度創設以来、県内のクラブ登録数は順調に増加してきたが、近年は横ばい傾向。（平成23年度実績：13市町73クラブ、平成24年度実績：16市町75クラブ）
- ・こどもエコクラブ活動の広がりは見られるものの、市町村の中には未設置のところも

- あり、未だ活動に対する市町村間の温度差があるのが現状。  
 ・今後とも市町村に、こどもエコクラブの活動に対する普及啓発、連携体制の強化の働きかけが必要。



こどもエコクラブの活動  
 (リサイクルプランターにパンジー植栽)



こどもエコクラブ交流会  
 (活動発表)

(2)ちびっこエコスタート推進事業

- ・平成23年度は、東部地域で2園、平成24年度は、中部地域1園、西部地域1園が取り組んでおり、今後実施園の拡大を図ることが必要。
- ・幼児向けに出前研修を実施できる「ちびエコアドバイザー」の人材育成も必要。



職員・保護者向け環境学習研修会



園児向け環境学習研修会

**実績**

1 こどもエコクラブ活動支援事業

(1)こどもエコクラブへの活動支援

こどもエコクラブの活動の活性化を推進するため、こどもエコクラブの活動経費に対し助成を行った。

- ・こどもエコクラブ数 56クラブ
- ・メンバー・サポーター数 6,785人
- ・補助金総額 2,134千円

(2)こどもエコクラブの結成支援

県のホームページを通じて活動内容を紹介するほか、こどもエコクラブのない市町村に結成支援の働きかけを行った。

その結果、クラブ登録数は75クラブ(平成24年度末)から79クラブ(平成25年度末)に増加し、全市町村での登録を果たした。

(3)こどもエコクラブ交流会の実施

県内で活動しているこどもエコクラブの交流会を開催し、事例発表や情報交換を通じて活動の活性化を図った。

なお、こどもエコクラブ交流会は、平成21年度から実施している。

ア 日時:平成26年2月15日(土)

イ 場所:米子市児童文化センター  
 (米子市西町133)

## ウ 内容

- 活動発表 4クラブ
  - ・メダカみ～つけ探検
  - ・YONAGOジャングルエコ探検
  - ・それ行け中海探検
  - ・彦名地区チビっ子環境パトロール隊
- ネイチャーゲーム
- ソフトバンク鳥取米子ソーラーパーク・とっとり自然環境館見学

## 2 ちびっこエコスタート推進事業

- ・平成25年度は、かんろ保育園・松保保育園で取組開始
- ・園児向け環境学習研修会を実施

## 連絡先

生活環境部 環境立県推進課 環境イニシアティブ担当 電話0857-26-7205

## 参考URL

鳥取県環境立県推進課のwebサイトより

「こどもエコクラブ」

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=82801>

「ちびっ子エコスタート」

<http://www.pref.tottori.lg.jp/177137.htm>

## 平成25年度 鳥取県環境白書

### 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-1 環境教育・学習の推進

## 06 環境保全の啓発活動の推進

### 施策

#### 1 事業の目的

環境保全意識の向上を図るため

#### 2 事業の内容

根雨・黒坂両小学校の環境教育は、依頼により平成25年度も引続き実施し、併せて環境教育の指導者育成を図っていく。

なお、ホームページによる情報発信を行い、環境学習に係る器材の使用促進、職員による出前講座活用を呼びかける。

また、昨年度実施した小学生等を対象とする夏休み自然体験学習を実施することを検討し、この体験を通して森林に対する愛情を培うとともに森林資源の確保、国土保全、環境保全に関心を持ってもらう。

##### (1) 環境学習の推進

1. 放課後子ども教室(根雨小学校、黒坂小学校)
2. 自然体験学習
3. その他、保育園、小・中・高等学校、公民館等からの依頼により実施

##### (2) 住民に対する情報発信と啓発活動の充実

1. ホームページ(しぜんの宝箱)などで普及啓発
2. 依頼に基づき自然保護監視員による自然環境の説明を実施

##### (3) こどもエコクラブ登録の推進

##### (4) 自然保護ボランティアと連携した自然保護活動の実施

#### 3 事業の現状及び課題

(1) 地球温暖化、廃棄物問題、身近な自然・緑地の減少など環境問題を解決するためには、自ら考え実践する人が増えることが必要である。

(2) 日野郡には豊かな自然が残っているが、さらなる環境保全意識の向上のため、広範囲な取り組みが求められる。特に次世代を担う子供達に普及啓発することが重要である。

(3) 平成22年度から根雨・黒坂両小学校で放課後子ども教室の一環として、1ヵ月に1回～2回、福祉保健局の職員を講師として環境教育を実施しており、今後実施箇所の拡大と指導者育成を図ることが重要となる。

### 実績

#### (1) 環境学習の推進

##### 1. 放課後子ども教室(根雨小学校、黒坂小学校)

月1～2回、日野町の根雨・黒坂両小学校で日野町教育委員会が主催する放課後子ども教室において、地域の自然に触れる環境教育を実施した。

なお、この環境教育は、平成22年度から実施している。

校名	実施回数(回)	参加延べ児童数(人)	実施内容
根雨小学校	5	76	植物探し、竹笛づくり など
黒坂小学校	12	73	田んぼ・川の生物調べ、ネイチャーゲームなど

#### 2. 自然体験学習

イベント名「わくわく自然体験塾」として、鏡ヶ成キャンプ場で実施した。

(1) 実施日 平成25年10月20日(日)

- (2)参加数 17人
- (3)実施内容 鏡ヶ成周辺の散策

3. その他、保育園、小・中・高等学校、公民館等からの依頼により実施実績なし

(2)住民に対する情報発信と啓発活動の充実

- 1. ホームページ(しぜんの宝箱)などで普及啓発  
月3~4回の記事を更新し、情報発信及び啓発活動を実施した。

(参考記事)

○オオハンゴンソウを防除しよう！その1

<http://www.pref.tottori.lg.jp/item/834303.htm#moduleid293163>

○オオハンゴンソウを防除しよう！その2

<http://www.pref.tottori.lg.jp/item/836322.htm#moduleid293163>

- 2. 依頼に基づき自然保護監視員による自然環境の説明を実施

○生活体験合宿(日野町公民館)

日野町公民館が実施した夏休み生活体験合宿において、自然観察を実施した。

(1)実施日 平成25年7月30日

(2)参加児童数 20人

(3)実施内容 川の自然観察

(3)こどもエコクラブ登録の推進

新規登録3件

(4)自然保護ボランティアと連携した自然保護活動の実施

(1)実施日 平成25年5月11日(土)他 計4回

(2)延べ参加数 55人

(3)実施内容

・鏡ヶ成湿原保全作業

・オオハンゴンソウ防除作業

・オカメヅタ防除作業

・大山秋の一斉清掃

## 連絡先

日野振興センター 日野振興局 電話0859-72-0321(代表)

## 参考URL

鳥取県日野総合事務所のwebサイトより

「環境教育・環境学習」

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=24177>

## 平成25年度 鳥取県環境白書

### 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-1 環境教育・学習の推進

## 07 鳥取方式の芝生化促進事業

### 施策

#### 1 事業の目的

- 校庭等の芝生化には、屋外活動の推進、子どもの情緒安定、周辺の気温低下による節電など、様々な効果が見込まれている。
- しかしながら従来、芝生は高価で管理が難しく、気軽に立ち入りできて親しめるというイメージでとらえられてこなかった。
- 現在、鳥取方式の芝生化として、場所に応じて最適の芝生(洋芝、和芝)を選択、併せて、住民(関係者)も参加しながら最も効果的・効率的な維持管理を実施する取り組みが進み、全国から注目を集めている。
- このため、鳥取方式を考案したNPO法人グリーンスポーツ鳥取(GST)と連携し、鳥取方式の芝生化に県として総合的に取り組み、鳥取方式の発祥の地にふさわしい芝生化先進県を目指す。

#### 2 事業の内容

子どもが自由に運動したり、遊んだりする保育園・幼稚園の園庭、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の校庭、広場(公園、空き地も含む)の芝生化を様々な主体と連携しながら加速度的に進める。

##### (1) 県民への情報発信、普及啓発

- ・鳥取方式の芝生化を促進するイベントの開催
- ・市町村や学校、施設関係者、県民の理解の促進(芝生化パンフレットや補助制度を紹介したチラシ、DVDの活用など)

##### (2) 県施設での芝生化の促進

- ・GST(NPO法人グリーンスポーツ鳥取)と連携して、目的に合致する県施設での芝生化に積極的に取り組み、適切な初期コストで、後の維持管理のしやすい芝生化の導入手法を選択していく。

##### (3) 芝生化の支援

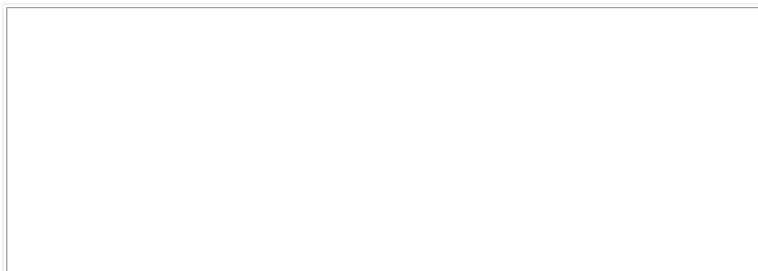
- ・保育所・幼稚園及び小学校を対象に、鳥取方式の発祥の地にふさわしい芝生化に取り組むものへの支援を行う。

##### (4) プロジェクトチームでの芝生化の促進

- ・庁内関係課に加え、GSTが技術アドバイザーとして参画したプロジェクトチーム(平成21年度～)において、鳥取方式の芝生化の推進に部局横断的に取り組む。

#### 3 事業の現状及び課題

- ・幼稚園、保育園庭芝生化については、平成22年度から25年度にかけて約65園を芝生化して大きく進んだが、今後は未実施の園に対して芝生化のメリットをどのようにPRし、事業に取り組む園をどう掘り起こすかが課題。
- ・小学校校庭の芝生化については面積が広く、様々な利用者があるため、経費負担や関係者の調整などの問題から事業化が困難となっている。県補助事業により芝生化した学校の取組事例や各種助成制度を情報提供しながら、実施主体の個別事情を考慮した支援を進める必要がある。





平成22年度に芝生化した良善幼稚園

## 実績

<校庭・園庭芝生化支援>

- 保育所・幼稚園園庭芝生化事業  
(対象:幼稚園・保育所)  
実施箇所: 3園  
(大正保育園、めぐみ保育園、エルルこども学園)  
(当補助金による既実施箇所: 49)
- 小学校校庭芝生化モデル事業  
(モデル事業、対象:鳥取県内の市町村及び実行委員会)  
実施箇所: 2校  
(会見小学校、日進小学校)

※両事業ともNPO法人グリーンスポーツ鳥取が技術指導

<啓発・PR>

- 「鳥取方式による全面芝生化大作戦in久松公園」  
(平成23年6月18日、久松公園ほか)
- 「芝生化アカデミー」  
(平成23年11月3日、コカ・コーラウエストスポーツパークほか)
- 「芝生化促進事業説明会」  
(平成24年2月29日、東中部会場各1回開催)
- 「第2回鳥取方式の芝生化アカデミー」  
(平成24年9月16日、河原第一小学校ほか)
- 「第3回鳥取方式の芝生化アカデミー」  
(平成25年9月29日、日進小学校ほか)

## 連絡先

文化観光スポーツ局スポーツ課 担当: 蓼本(たでもと) 電話: 0857-26-7919

## 参考URL

鳥取県文化観光スポーツ局スポーツ課のwebサイトより  
「鳥取方式®の芝生化の促進」

<http://www.pref.tottori.lg.jp/shibafuka/>

## 平成25年度 鳥取県環境白書

### 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-1 環境教育・学習の推進

## 08 鳥取県地球温暖化防止活動推進センターの指定

### 施策

#### 1 事業の目的

地球温暖化対策の推進に関する法律(以下「法」という。)第24条に規定される鳥取県地球温暖化防止活動推進センター(以下「センター」という。)を指定し、センターを中心とした活動により、地球温暖化対策を草の根的に広げ、地域や家庭に根付いた地球温暖化防止活動を促進する。

#### 2 事業の内容

センターへ次の事業を委託

##### (1)地球温暖化防止推進事業

ア 家庭・地域で地球温暖化防止につながるライフスタイルやワークスタイルを県内に広く提案し、実践を促すための啓発活動

イ 温暖化防止に係る知識とファシリテーション技術を持ち、地域における温暖化防止活動をリードする県地球温暖化防止活動推進員(以下「推進員」という。)の育成

ウ 体験型の研修会の実施によるエコドライブの普及啓発

##### (2)とっとり環境教育・学習アドバイザー制度運用事業

環境について専門的知識を有する人材(とっとり環境教育・学習アドバイザー)の発掘・育成及び講習会派遣のための連絡調整

#### 3 事業の現状及び課題

- ・平成22年6月に鳥取県地球温暖化防止活動推進センター指定制度を開始。
- ・第1期(平成22～24年度)、第2期(平成25～27年度)は、NPO法人ECOフューチャーとつとりをセンターに指定。
- ・センターは推進員委嘱の要件である推進員養成研修を開催している。各推進員は、センターの助言や情報などをもとに活動している。
- ・行政施策情報や地球温暖化防止活動に関する最新の情報を入手することができるように、センターが中心となって情報の発信、共有化を今後も図っていく必要がある。

### 実績

○地球温暖化防止啓発活動、推進員養成等をセンターに指定しているNPO法人ECOフューチャーとつとりに委託することにより、センターを中心とする事業展開を図った。  
○地球温暖化防止活動を県民運動として草の根的に広げ、地域や家庭に根付いた活動とするため推進員委嘱制度を平成22年度から開始している。平成25年度は、2回の養成研修を開催、2回のスキルアップ研修を開催した。

(平成26年3月31日現在 推進員委嘱数118名)

推進員の活動状況 → <http://www.pref.tottori.lg.jp/151699.htm>

## 連絡先

生活環境部 環境立県推進課 環境実践推進担当 電話0857-26-7874,7875

## 参考URL

鳥取県環境立県推進課のwebサイトより  
「地球温暖化対策」

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=17861>

## 平成25年度 鳥取県環境白書

### 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-1 環境教育・学習の推進

## 09 とっとり環境教育・学習アドバイザー制度

### 施策

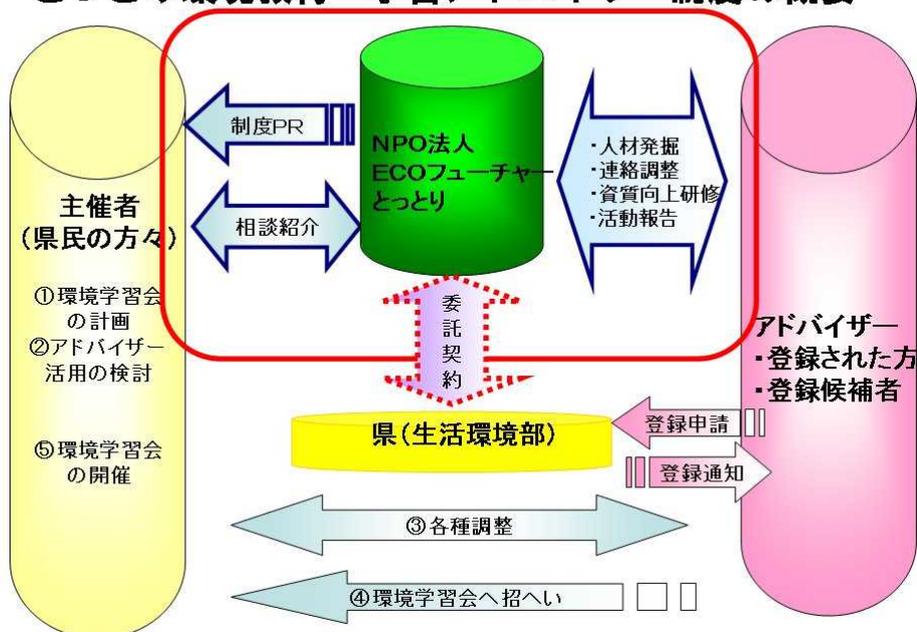
#### 1 事業の目的

地域や学校で実施される環境教育を推進、支援するために、環境問題に関して知識や経験を有する者を「とっとり環境教育・学習アドバイザー」として登録・紹介する制度を設けている。

#### 2 事業の内容

現在、自然環境の保全、ゴミリサイクル、地球温暖化防止、新エネルギー等に関する知識や経験を有する91名(平成25年度末)をアドバイザーとして登録し、体験型及び実践型の学習をサポートしている。  
人材の発掘や育成、講習会派遣のための連絡調整を、鳥取県地球温暖化防止活動推進センターに指定しているNPO法人ECOフューチャーととりに委託し、実施している。

### とっとり環境教育・学習アドバイザー制度の概要



#### 3 事業の現状及び課題

- ・アドバイザー登録者数91名(平成25年度末)
- ・人材の発掘や育成、講習会派遣のための連絡調整を、センターに委託し実施。環境について専門的知識を有する人材を広く活用出来るよう、センターが中心となった体制を今後も図っていく必要がある。

### 実績

- ・平成25年度中に10名のアドバイザーを新規登録  
平成25年度末のアドバイザー登録者数は91名
- ・センターが、アドバイザーと環境学習会等主催者との連絡調整を実施(平成25年度14回)

## 連絡先

生活環境部環境立県推進課 環境実践推進担当 電話:0857-26-7875

## 参考URL

鳥取県環境立県推進課のwebサイトより  
「とっとり環境教育・学習アドバイザー」  
<http://www.pref.tottori.lg.jp/37371.htm>

## 平成25年度 鳥取県環境白書

### 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-1 環境教育・学習の推進

## 10 グリーンウェイブ環境教育推進事業

### 施策

#### 1 事業の目的

地球環境問題が深刻化する中、将来も自然の恩恵を受けることのできる社会、すなわち持続可能な社会にしていくために、県民一人ひとりが環境対策や再生可能エネルギーについて考えるための「グリーンウェイブ体験型環境教育プログラム」を作成し、学校、地域での環境学習出前教室で活用する。

～「グリーンウェイブ体験型環境教育プログラム」とは～

「とっとりグリーンウェイブ」の重点施策である鳥取県の自然環境の豊かさを活用した再生可能エネルギーの創造に着目し、県内の再生可能エネルギーの導入状況や活用について知り、併せて再生可能エネルギーの原理・仕組みを体験により学習するためのプログラムである。

#### 2 事業の内容

##### (1) 事業内容

- ・グリーンウェイブ体験型環境教育プログラム(以下「プログラム」という。)の企画
- ・プログラム案の作成、試行
- ・プログラム(文書版、動画版)の作成、周知
- ・プログラム活用講習会の実施(対象:とっとり環境教育・学習アドバイザー)
- ・幼児向け環境学習出前教室の連絡調整

##### (2) スケジュール

	時期	実施内容
平成25年度	4月～10月	専門家の助言を受けながら、プログラム案8点を作成
	11月	プログラム案の試行
	12月	プログラム(文書版)の完成
	1月	プログラム(動画版)の完成
	2月～3月	HP作成、広報、プログラム活用講習会の実施
	随時	幼児向け環境学習出前教室の連絡調整
平成26年度	4月～	学校、地域での環境学習出前教室での活用

#### 3 事業の現状及び課題

- ・環境学習出前教室で活用できるプログラムは現在ない状況。
- ・学校、地域での環境学習出前教室では、とっとり環境教育・学習アドバイザーの資質に頼る部分が多い。  
⇒アドバイザーが活用できるプログラムが必要。

### 実績

「風力」「太陽光」「水力」「太陽熱」「バイオマス」「体力発電」「地球史」「ゼロエネハウス」の8分野について各1

グリーンウェイブ環境教育プログラム			
	太陽光	風力	水力
テーマ	<p>つくってみよう！ 自然エネルギーで ソーラーあんどん！</p>  <p>行灯</p>	<p>やってみよう！ 自然エネルギーで かざぐるま発電！</p> 	<p>つくってみよう！ 自然エネルギーで 水力発電！</p> 
	体力発電	地球史	
テーマ	<p>やってみよう！ 自分の力でエコ発電</p> 	<p>地球の歴史年表をつくろう</p>	
			ゼロエ

### 連絡先

生活環境部 環境立県推進課 環境イニシアティブ担当 電話0857-26-7205

### 参考URL

## 平成25年度 鳥取県環境白書

### 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-1 環境教育・学習の推進

## 11 衛生環境研究所環境学習・活動支援事業

### 施策

#### 1 事業の目的

持続可能な社会の構築に向けて、環境教育・学習の必要性は益々高まっており、環境学習の拠点として、引き続き環境に関する情報や体験の機会を積極的に提供する。

環境教育・学習の機会や場の提供により、県民への環境に関する知識の普及、環境保全意識の高揚を図る。

#### 2 事業の内容

- (1)小・中学校等の総合学習等の支援  
教育現場のニーズに応じ、施設見学や出前により環境学習を支援する。
- (2)施設公開イベントの開催  
県民向けに研究所のPRと調査研究実績等の紹介を行う。
- (3)環境学習用資機材の整備・貸出し  
環境測定キット、環境図書等の整備・貸出しを行う。

#### 3 事業の現状及び課題

研究所の施設や技術的ノウハウを活用しながら、小・中学校等の環境学習や環境活動団体の活動支援を行っている。

### 実績

区分	実施日等	件数	参加人数	主な参加者等
施設見学	平成25年6月4日 外	25	631	鳥取短期大学、北条小学校、尚徳公民館、米子市県公民館、若葉台地区公民館 等
環境教育・学習	平成25年6月14日 外	7	944	郡家小学校、鳥取県生活協同組合、やまびこ人権文化センター、羽合小学校、岩倉小学校 等
出前講座	平成25年6月5日 外	17	461	米子市崎津地区公民館、鳥取県高等学校研究協議会、日野高等学校、中海環境フェア、倉吉看護専門学校 等
愛らぶ東郷池	平成25年8月3日	1	90	小学生等一般県民 【内容】 ・湖水採取、CODパッケテスト ・東郷池クイズ

### 連絡先

生活環境部 衛生環境研究所 企画調整室 電話0858-35-5411

### 参考URL

鳥取県衛生環境研究所のwebサイトより  
「環境学習」

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=144173>

「施設見学・環境学習申込」

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=144170>

## 平成25年度 鳥取県環境白書

### 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-1 環境教育・学習の推進

## 12 衛生環境研究所発信事業

### 施策

#### 1 事業の目的

衛生環境研究所の調査研究の充実を図り、成果を社会に還元していくとともに、広く研究成果を公表する。

##### (1) 調査研究の充実

研究成果を行政施策や対策技術等へ反映し、社会に還元する。

##### (2) 環境情報・感染症情報の発信

ア 環境情報に関する県民のニーズに応え、環境問題に対する関心を高める。

イ 感染症の流行・予防等について県民の関心・注意を促す。

#### 2 事業の内容

##### (1) 調査研究の充実

###### ア 外部評価の実施

当研究所の行う調査研究について、外部の学識経験者による評価を行い、結果を課題の選定、見直し等に反映する。

###### イ 分野別研究会の活性化

大学等研究者との分野別研究会において、最先端の研究者等との情報交流を深め、研究活動の活性化を図る。

###### ウ 研究成果の積極的な公開

広く一般県民を対象として、当研究所の研究成果や環境モニタリング結果等について公開し、意見や要望を聴取する。

##### (2) 環境情報・感染症情報の発信

ホームページによる環境情報、感染症情報の提供により情報発信する。

#### 3 事業の現状及び課題

### 実績

#### 平成25年度実績

##### (1) 調査研究の充実

###### ○外部評価の実施

県政の重要課題や県民ニーズを踏まえた研究活動の活性化を促進し、優れた研究成果を上げるため、衛生環境研究所が取り組む調査研究課題について、広く各方面の有識者等の意見を聞き、参考とした。

会議の名称等	開催日時	参加者等	内容
外部評価	(ヒアリング)	評価者	平成24年度で終了した5課題についての事後評価、研究途中段階の2課題についての中間評価、平

<p>専門家 平成25年 8月23日 県民代表 平成25年9 月3日</p>	<p>専門家 4名 県民代表 3名</p>	<p>成26年度実施予定の3課題についての事前評価を受け、その結果を平成26年度当初予算要求に反映させるとともに、ホームページ上で公開した。</p>
--	---------------------------	--

## ○分野別研究会の活性化

下記の分野ごとの研究者が会し交流及び情報交換を進め、幅広いネットワークの構築を図ることにより互いの研究活動を活性化させ、行政施策への提言等に資することを目的とし、下記のとおり分野別研究会を開催した。

名称	担当室	会員数 (研究所外)	開催日時	内容
廃棄物・資源循環研究会	リサイクルチーム	37	平成25年 9月27日	<p>○基調講演 「不均一系酸触媒による化学資源の低環境負荷生産～革新的な触媒化学による環境にやさしいバイオマス資源活用の展開～」 東京工業大学大学院総合理工学研究科 教授 原 亨和 氏</p> <p>○ 研究発表 ・「食品廃棄物を機能性材料としてリサイクルする発電デバイス材料の新規開発」 米子工業高等専門学校物質工学科 准教授 谷藤 尚貴 氏 ・「循環型社会における産業廃棄物のマニフェストの利活用への提案」 鳥取環境大学環境学部 講師 金相烈 氏 ・「廃乾電池の排出状況に関する調査報告(その2)」 鳥取環境大学環境学部 教授 松村 治夫 氏 ・「パルスウェーブエンジニアリング技術を利用した有用イソプレノイド生産システムの開発 ～これまでの研究とバイオマス利用への展開～」 鳥取大学大学院工学研究科 准教授 原田 尚志 氏</p> <p>○ ビジネスプラン発表会/ニーズ勉強会 ・ 鳥取中部ふるさと広域連合 環境福祉課環境係 係長 上田 智幸 氏 ・ タングルウッド株式会社 開発本部長 竹中 史人 氏</p>
自然生態系の再生による水質浄化研究会	水環境対策チーム	17	平成26年 3月7日	<p>○会員研究者の研究・取組紹介</p> <p>基調講演 リモートセンシングによる藻場観測およびPM2.5観測の現状と課題 作野裕司(広島大学院工学部)</p> <p>リモートセンシングの活用が期待される当所の研究紹介 中海における海藻の広域モニタリングの重要性 宮本 康(鳥取県・衛環研)</p> <p>鳥取県におけるPM2.5の観測結果 湊 沙花(鳥取県・衛環研)</p>

## (2)環境情報・感染症情報の発信

### ○感染症情報センターの運営

・感染症週報及び月報をホームページに掲載するとともに、医療機関及び社会福祉施設等の希望者に郵送、電子メール等により、啓発及び注意喚起を行った(県内約90機関へ情報提供)。

○衛生環境研究所ホームページの管理・運営

- ・調査研究に関する情報
- ・食の安全に係る行政検査情報
- ・東郷池・中海の水質状況、黄砂・花粉・有害紫外線等の環境情報
- ・感染症情報
- ・環境教育・学習の情報

**連絡先**

生活環境部 衛生環境研究所 企画調整室 電話0858-35-5411

**参考URL**

鳥取県衛生環境研究所のwebサイトより  
「鳥取県衛生環境研究所」

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=3565>

## 平成25年度 鳥取県環境白書

### 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-1 環境教育・学習の推進

## 13 とっとり県民カレッジ事業

### 施策

#### 1 事業の目的

県民を生涯学習へいざなうため、そのきっかけづくりとして、総合的・体系的な学習機会や場の確保を行う。

#### 2 事業の内容

主催講座「未来をひらく鳥取学」において、「自然・環境」の科目を設定。

#### 3 事業の現状及び課題

講師により参加者数の増減が見られるため、主催講座全体のバランスを考えながら講師選定を行うことが必要。



とっとり県民カレッジ開催の様子

### 実績

「自然・環境」分野の講座を3回実施しました。

- ◆平成25年6月15日(土)  
(演題)「ふるさとの風景が語りかけるもの～森・里・海、水の連環とエコツーリズム～」  
(講師)NPO法人大山王国理事長  
石村 隆男 氏  
(場所)米子コンベンションセンター小ホール  
(参加者数)233名
- ◆平成25年9月7日(土)  
(演題)「地震の揺れって何だろう?ーしくみを知って正しく備えるー」  
(講師)鳥取大学大学院工学研究科教授  
香川 敬生 氏  
(場所)倉吉未来中心小ホール  
(参加者数)142名
- ◆平成25年9月14日(土)  
(演題)「動物行動学から見た動物とヒト～人間理解や社会貢献にどう役立つのか」  
(講師)鳥取環境大学環境学部教授、副学部長  
小林 朋道 氏  
(場所)とりぎん文化会館小ホール  
(参加者数)154名



## 連絡先

鳥取県教育委員会事務局 社会教育課 生涯学習推進担当 電話0857-26-7943

## 参考URL

鳥取県教育委員会事務局社会教育課のwebサイトより  
「とっとり県民カレッジ」

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=47333>

## 平成25年度 鳥取県環境白書

### 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-1 環境教育・学習の推進

## 14 米国バーモント州への青少年派遣

### 施策

#### 1 事業の目的

教育、環境、文化といった分野を基に現地の青少年等と交流を行うことで、未来を背負う青少年の国際感覚を養い、視野を広げるとともに、豊かな人間性の形成を目指す。同時にバーモント州との更なる交流の促進を図る。

#### 2 事業の内容

バーモント州内の民間環境交流団体GATPと連携の上、県内の高校生等を2週間程度派遣し、ホームステイをしながら、現地の高校生と共にフィールドスタディを中心に環境学習や学校交流を展開する。

なお、平成21～22年度はモデル事業として県が実施したが、平成23年度から(公財)鳥取県国際交流財団への県補助事業に移管。

派遣時期等(予定):平成25年10月 派遣人数 生徒15名程度

#### 3 事業の現状及び課題

### その他

#### 4 生徒の募集方法

HPや教育委員会を通じて募集

### 実績

#### (1)派遣期間

平成25年10月24日(木)から11月4日(月)

#### (2)派遣人員

県内の高校生及び高等専門学校生15名

#### (3)交流内容

##### ア 環境学習

環境問題に積極的に取り組んでいる企業、地方自治体、環境関連施設、環境保護地域等を視察するとともに、バーモント州の学生とペアになって調査に取り組み、その成果を発表。

##### イ 文化体験等

地域の文化遺産等を視察し、米国の文化や歴史に関する見聞を広めた。また、交流相手先の生徒の家庭にホームステイし、米国の家庭生活を体験し交流を深めた。

##### ウ 学校交流

地元高校の授業に参加し、地元高校生との交流を深めるとともに、地元大学を訪問し、米国における大学教育に触れた。

### 連絡先

文化観光スポーツ局 交流推進課 交流支援担当 電話0857-26-7595

### 参考URL

文化観光局「国際交流」のwebサイトより

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=6140>

## 平成25年度 鳥取県環境白書

### 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-1 環境教育・学習の推進

## 15 鳥取県環境学術研究等振興事業

### 施策

#### 1 事業の目的

県内の高等教育機における環境その他の地域の課題に関する調査研究を支援することにより、環境の保全及び快適な環境の創造に関する施策の推進並びに個性豊かな地域社会の形成に資することを目的とする。

#### 2 事業の内容

鳥取県環境学術等研究基金の運用益による、鳥取環境大学をはじめとした県内高等教育機関における環境等に関する学術研究への支援。

- (1)財源 鳥取県環境学術等研究基金の運用益(平成11年3月設置 約40億円)
- (2)開始年度 平成13年度
- (3)対象機関 鳥取環境大学、鳥取短期大学、鳥取大学、米子工業高等専門学校及び岡山大学地球物質科学研究センター
- (4)助成額(予算額) 51,000千円
- (5)成果の公表  
当課ホームページや「とっとり産業フェスティバル」でH24年度に実施した研究成果の発表を行う予定。

#### 3 事業の現状及び課題

平成24年度より一部事業を統合、拡充して実施している。24年度助成枠については、継続研究分を考慮し3:1としているが、最終的(26年度ごろ)からは2:1(環境部門:地域学部門)を目安に助成枠を設定したい。

### 実績

#### 平成25年度実績

鳥取県環境学術研究基金の運用益により、鳥取環境大学をはじめとした県内高等教育機関における環境に関する学術研究に対する助成等を行った。64課題の応募に対して37課題を選定し、合計49,652千円を助成した。

本事業で助成を行った平成25年度助成課題の研究成果の発表について、「とっとり産業フェスティバル2013」(平成25年9月6日、7日)で実施した。

### 連絡先

企画部・教育・学術振興課・高等教育・学術振興担当・0857-26-7814

### 参考URL

鳥取県教育・学術振興課のwebサイトより  
「鳥取県環境学術研究振興事業」

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=30107>

## 平成25年度 鳥取県環境白書

### 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-1 環境教育・学習の推進

## 16 船上山少年自然の家・大山青年の家

### 施策

#### 1 事業の目的

青少年を船上山や大山の自然に親しませ、自然の中での集団宿泊訓練等を通じて健全な育成を図る。

#### 2 事業の内容

キャンプ、ハイキング、カヌー、スキー、星座観察など、施設が行う主催事業

#### 3 事業の現状及び課題

利用者数の7～8割が児童・生徒であり、少子化により児童・生徒数が年々減少する中、今後、全体利用者数を増やすため、年齢層を拡げたプログラムを検討する必要がある。

#### その他

平成25年度開催事業一覧



### ○船上山少年自然の家

事業名	期日	対象	募集	概要
船上山さくら祭り	4月28日(日)	一般	1000名程度	船上山の万本桜に囲まれて家族や友達と楽しい1日を過ごしましょう！
ロッククライミング&ツリーイング教室	5月25(土)～26日(日)	小学5年生～中学生、及び一般	15名	船上山の屏風岩にチャレンジ！自分の力で30mの岩壁を乗り越えよう。木登り体験もできるよ！
ちっちゃい探検隊(1)	6月22(土)～23日(日)	小学1年生～3年生	48名	野山を駆けめぐりワクワクするちっちゃい冒険にチャレンジ！
船上山の夏を楽しむ	7月20(土)～21日(日)	小学4年生～中学生	40名	船上山の夏をダイナミックな活動で満喫。ダム湖の活動などを通じて異年齢の参加者間の交流も深まります。
English camp in Senjyo mountain	7月30(火)～31日(水)	小学4年生～中学生	40名	船上山が外国に？話す言葉は英語のみ！ALTの先生との活動を楽しみながら、英語の力が身につく新企画！
キッズアドベン	8月6(火)	小学5年生～	36名	離れた土地から船上山を目指し、リヤカー

チャー	～11日(日)	中学生		にたくさんの思いを乗せて大切な仲間と様々な土地でテント泊！一生も思い出にしよう！
ファミリーキャンプ	8月31(土)～9月1(日)	小・中学生とその家族	20家族	ダム湖活動・谷川探検などの親子選択活動・野外炊飯などの活動を親子で体験。親子で船上山を満喫！
リトルファーマー in 船上山	10月3日(木)～4日(金)	各校の不登校傾向、教育支援センターに通う小・中学生と職員、保護者一般	40名	大自然の中で心をリフレッシュ！船上山や近隣の農家で自然や人とのふれあいを通じて、明日への活力へとつなげよう！
船上山の秋を楽しむ	10月26(土)～27日(日)	小学4年生～中学生及び保護者一般	40名	船上山の夏をダイナミックな活動で満喫。野外炊飯などの活動などを通じて新しい友だちをつくる、またとないチャンス！
ちっちゃい探検隊(2)	11月16日(土)～17日(日)	小学1年生～3年生	48名	家族と離れてドキドキしながら秋の野山を駆けめぐり、ワクワクするお泊りでちっちゃい冒険にチャレンジ！
船上山アウトインドアスタディ	12月26(木)～28日(土)	小学3年生～中学生	50名	遊びも勉強も先生の卵(大学生)に何でも聞いてどんだん力をつけよう！冬休みの宿題対策はこれで決まり！！
船上山ウインターフェスティバル(1)	1月18(土)～19日(日)	一般	60名	銀世界の中で雪遊び。ソリ遊びや歩くスキー・スノーシューハイキングなど、好きな活動を自由に選んで冬の船上山を満喫！
船上山ウインターフェスティバル	2月15日(土)～16日(日)	一般	60名	銀世界の中で雪遊び。ソリ遊びや歩くスキー・スノーシューハイキングなど、好きな活動を自由に選んで冬の船上山を満喫！
ちっちゃい探検隊(3)	3月8日(土)～9日(日)	小学1年生～3年生	48名	家族と離れてドキドキしながら、早春の野山を駆けめぐり、ワクワクするお泊りでちっちゃい冒険にチャレンジ！

### ○大山青年の家

事業名	期日	対象	募集	内容・目的
春の親子フェスティバル	4月28日(日) 日帰り	どなたでも	定員なし	様々な体験コーナーや親子で楽しめるゲームがたくさんあります。休日のひとときを青年の家で楽しみましょう！
親子エンジョイカヌー	1:5月18日(土) 2:5月19日(日) 両日とも日帰り	小学生以上の親子	両日各60名	伝説の赤松の池で、親子でカヌーの基礎や楽しみ方を学びましょう！
大山ファミリー登山	5月25日(土) 日帰り	小学3年生以上の家族	50名	家族で励まし合って大山山頂を目指します。新緑の大山で様々な発見がありますよ。
はじめての冒険(中学年)	6月15日(土)～16日(日) 1泊2日	小学3年生～4年生	36名	小学校中学年を対象にしたキャンプ。
親子ふれあいキャンプ	6月29日(土)～30日(日) 1泊2日	小学生以上の親子	100名	テント設営、野外炊事、キャンプファイヤー、カヌー等、親子でいきいき体験活動！
生涯学習実践道場(自然体験指導者養成等)	7月5日(金) 日帰り	青年、一般	100名	生涯学習実践者の発表を聞き、今後の生涯教育の実践に役立てましょう。
大山わくわく探検隊	7月29日(月)～8月2日(金) 4泊5日	小学5年生～中学生	36名	大山山頂小屋宿泊、阿弥陀川沢登りなど大山をステージとした長期キャンプ。
はじめての冒険(低学年)(1)	9月28日(土)～29日(日) 1泊2日	小学1年生～2年生	36名	小学校低学年を対象にした初心者向けのキャンプ。
秋祭り	10月20日(土) 日帰り	どなたでも	定員なし	青年の家を県民の方に開放します。様々なゲームや体験コーナーを楽しんでください。
はじめての冒険	10月26日(土)	小学1年生～	36名	小学校低学年を対象にした初心者向けの

(低学年)(2)	～27日(日) 1泊2日	2年生		キャンプ。
親子エンジョイ スキー	1:1月18日(土) 2:1月19日(日) 両日とも日帰り	小学1～4年 生の親子	各100 名	青年の家特設ゲレンデでスキーの基礎を学 び、親子で楽しめます。初心者大歓迎で す。
歩くスキーのつ どい	2月1日(土) ～2日(日) 1泊2日	中学生以上	50名	クロスカントリースキーの基礎を学び、冬の 大山をツーリングして楽しめます。アニマル トレッキングも楽しいよ!

## 実績

### ○船上山少年自然の家

事業名	期日	対象	参加人数	概要
船上山さくら祭り	4月28日(日)	一般	約3000名	晴天にも恵まれ予想を大幅に上回る参加 者は、船上山の万本桜の下、家族や友達と 楽しい1日を過ごしました。
ロッククライミ ング&ツリーイン グ教室	5月25(土) ～26日(日)	小学5年生～ 中学生、及び 一般	21名	船上山の屏風岩にチャレンジ！自分の力で 30mの岩壁を乗り越え、木登り体験しまし た。
ちっちゃい探検 隊(1)	6月22(土) ～23日(日)	小学1年生～ 3年生	48名	ちっちゃい子ども達が親元を離れ、大自然 の中で野山を駆けめぐり、ワクワクする冒険 にチャレンジ！仲間と生活することを通して 自分で行動する自信をつけました。
船上山の夏を楽 しむ	7月20(土) ～21日(日)	小学4年生 ～中学生	39名	船上山の夏をダイナミックな活動で満喫し、 ダム湖の活動などを通じて異年齢の参加者 間の交流も深まりました。
English camp in Senjyo mountain	7月30(火) ～31日(水)	小学4年生～ 中学生	40名	船上山が外国に？話す言葉は英語のみ！ ALTの先生との活動を楽しみながら、英語 の力が身についただけでなく多国籍風料理 も味わいました。
キッズアドベン チャー	8月6(火) ～11日(日)	小学5年生～ 中学生	28名	離れた土地から船上山を目指し、リヤカー にたくさんの思いを乗せて大切な仲間と 様々な土地でテント泊！みんなで苦労して 一生の思い出になりました。
ファミリーキャン プ	8月31(土) ～9月1(日)	小・中学生 とその家族	20家族 (63名)	ダム湖活動・谷川探検などの親子選択活 動・野外炊飯などの活動を親子で体験。あ いこくの雨でしたが、親子で船上山を満喫 しました。
リトルファーマー in 船上山	10月3日(木) ～4日(金)	各校の不登 校傾向、教育 支援センター に通う小・中 学生と職員、 保護者一般	13名	大自然の中で心をリフレッシュ！船上山や 近隣の農家で自然や人とのふれあいを通じ て、様々なことが学べました。
船上山の秋を楽 しむ	10月26(土) ～27日(日)	小学4年生 ～中学生及 び保護者一 般	60名	船上山の秋を「逃走中」で満喫。野外炊飯 などの活動などを通じて新しい友だちをつ くる、またとないチャンスでした。
ちっちゃい探検 隊(2)	11月16日 (土) ～17日(日)	小学1年生～ 3年生	48名	家族と離れてドキドキしながら秋の野山を 駆けめぐり、ワクワクするお泊りでちっ ちやい冒険にチャレンジしました。
船上山アウトイ ンドアスタディ	12月26(木) ～28日(土)	小学3年生～ 中学生	50名	遊びも勉強も先生の卵(大学生)に何でも聞 いてどんどん力をつけよう！冬休みの宿題 もはかどりしました。
船上山ウイン ターフェスティバ ル(1)	1月18(土) ～19日(日)	一般	27名	銀世界の中で雪遊び。ソリ遊びや歩くス キー・スノーシューハイキングなど、好きな 活動を自由を選んで冬の船上山を満喫しま した。
船上山ウイン ターフェスティバ ル(2)	2月15日(土) ～16日(日)	一般	59名(21 家族)	銀世界の中で雪遊び。ソリ遊びや歩くス キー・スノーシューハイキングなど、好きな 活動を自由を選んで冬の船上山を満喫しま した。
ちっちゃい探検 隊(3)	3月8日(土) ～9日(日)	小学1年生～ 3年生	48名	家族と離れてドキドキしながら、早春の野山 を駆けめぐり、ワクワクするお泊りでちっ

ちやい冒険にチャレンジしました。



さくら祭り



ロッククライミング



English camp



キッズアドベンチャー

○大山青年の家

事業名	期日	対象	参加人数	内容・目的
春の親子フェスティバル	4月28日(日) 日帰り	どなたでも	1010名	様々な体験コーナーや親子で楽しめるゲームがたくさんありました。休日のひとときを青年の家で楽しみました。
親子エンジョイカヌー	1:5月18日(土) 2:5月19日(日) 両日とも日帰り	小学生以上の親子	1:58名24家族 2:52名22家族	伝説の赤松の池で、親子でカヌーの基礎や楽しみ方を学びました。
大山ファミリー登山	5月25日(土) 日帰り	小学3年生以上の家族	54名	家族で励まし合って大山山頂を目指しました。新緑の大山で様々な発見がありました。
はじめての冒険(中学年)	6月15日(土)~16日(日) 1泊2日	小学3年生~4年生	36名	小学校中学年を対象にしたキャンプで、様々な経験をしました。
親子ふれあいキャンプ	6月29日(土)~30日(日) 1泊2日	小学生以上の親子	100名(35グループ)	テント設営、野外炊事、キャンプファイヤー、カヌー等、親子でいきいき、体験活動をしました。
生涯学習実践道場(自然体験指導者養成等)	7月5日(金) 日帰り	青年、一般	60名(30家族)	絵画部門と写真部門に分かれ生涯学習実践者の発表を聞き、作品に生かすことができました。
大山わくわく探検隊	7月29日(月)~8月2日(金) 4泊5日	小学5年生~中学生	34名	大山山頂小屋宿泊、阿弥陀川沢登りなど大山をステージとした長期キャンプを楽しみました。
はじめての冒険(低学年)(1)	9月28日(土)~29日(日) 1泊2日	小学1年生~2年生	36名	小学校低学年を対象にした初心者向けのキャンプを楽しみました。
秋祭り	10月20日(土) 日帰り	どなたでも	617名	青年の家を県民の方に開放し、様々なゲームや体験コーナーを楽しみました。
はじめての冒険(低学年)(2)	10月26日(土)~27日(日) 1泊2日	小学1年生~2年生	36名	小学校低学年を対象にした初心者向けのキャンプを楽しみました。
親子でお泊まり会	1月30日(土)~12月1日(日) 1泊2日	家族であればどなたでも	75名(25家族)	ノーテレビ、ノー冷蔵庫の部屋で、小さなお子様連れの家族でも、気軽に参加でき様々なゲームで楽しみました。
体も心もぼかぼ	1:12月21日	小学生以上の	両日とも25	参加人数は予定より少なかったものの、満

かウインター	2: 12月22日 両日とも日帰り	お子様を含む 親子	名ほど	足度の高いレクリエーションとなりました。
親子エンジョイ スキー	1: 1月18日(土) 2: 1月19日(日) 両日とも日帰り	小学1~4年 生の親子	1: 103名(4 7家族) 2: 96名(43 家族)	青年の家特設ゲレンデでスキーの基礎を学 び、初心者も交え親子で楽しめました。
歩くスキーのつ どい	2月1日(土) ~2日(日) 1泊2日	中学生以上	宿泊コース4 7名 日帰りコース 12名	クロスカントリースキーの基礎を学び、冬の 大山をツアーリングして楽しみました。アニマ ルトレッキングも楽しみました。



カヌー体験



ふれあいキャンプ



親子エンジョイスキー



実践道場

## 連絡先

鳥取県教育委員会事務局 社会教育課 電話0857-26-7519  
 県立船上山少年自然の家 電話0858-55-7111  
 県立大山青年の家 電話0859-53-8030

## 参考URL

鳥取県立船上山少年自然の家のwebサイトより  
 「鳥取県立船上山少年自然の家」  
<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=37749>

大山青年の家のwebサイトより  
 「大山青年の家」  
<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=4308>

## 平成25年度 鳥取県環境白書

### 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-1 環境教育・学習の推進

## 17 氷ノ山自然ふれあい館響きの森

### 施策

#### 1 事業の目的

氷ノ山自然ふれあい館において、国定公園氷ノ山の豊かな自然を紹介し、その魅力を体験できる場を提供するとともに、自然を大切にすることをはぐくんでいく。

#### 2 事業の内容

県内の児童等を対象として、自然観察会、創作体験、スキー等野外活動などを通じて、氷ノ山の魅力を発信する。  
各種の参加型催事を開催し、幅広い世代を対象として響きの森への集客につなげる。

##### ≪“響の森”の役割≫

■国定公園氷ノ山の豊かな自然を紹介し、その魅力を体験できる場を提供するとともに、自然を大切にすることを「はぐくむ」ことを目的として、地域経済への波及効果、地域活性化を図るという原点に戻る。

↓  
■「観光客誘致による地域経済への貢献」、「交流人口の増加による地域活性化」「自然環境教育プログラムの充実」という視点から、幅広い世代を対象とした各種参加型催事の開催と自然体験プログラムの提供を通じ氷ノ山の魅力を発信する。

↓  
■「自然環境教育」「ツーリズム」「氷ノ山地域の情報発信(ビジターセンター)」の拠点施設

##### ≪目指すべき方向性≫

- 周辺に賑わいを創出する氷ノ山の観光拠点となる集客施設
- “氷太くん”“民宿”との相互連携による自然環境教育の推進施設
- ツーリズムの一部機能の受入施設
- ボランティアリーダーの養成施設(宿泊研修型)
- 氷ノ山地域の情報発信施設(ビジターセンター機能)

##### ≪施設リニューアル≫

- “響の森”の役割と目指すべき方向性を実現するため、施設改修を行う。
- 1階に限定した改修  
「自然情報展示」「標本製作体験ラボ」「多目的スペース」「創作体験スペース」を計画。
- 予定 H25:設計(建築/展示)⇒H26:工事(建築/展示)⇒H27.4リニューアルオープン

#### 3 事業の現状及び課題

○平成25年度イベント内容【詳しくはホームページ等で確認】  
響きの森ホームページ <http://www.hibikinomori.gr.jp/>  
〈イベント情報〉 <http://www.hibikinomori.gr.jp/eventmonth.html>

### 実績

1. 氷ノ山の豊かな自然を紹介し、その魅力を体験できるビジターセンターとして、指定管理者による管理運営を行った。

- ① 施設概要:ブナの森のジオラマ、森のサーカスなど
- ② 指定管理者:(一財)鳥取県観光事業団

- ③ 指定管理委託料(平成25年度):46,497千円
- ④ 指定管理期間:平成21年度から平成25年度まで
- ⑤利用者数 平成25年度/32,946人

2. 施設リニューアルへ向けた準備のため、展示改修工事の実施設計を行った。  
(計 画)
- 平成25年度 実施設計
  - 平成26年度 改修工事
  - 平成27年春 リニューアルオープン

## 連絡先

生活環境部 緑豊かな自然課 自然公園担当 電話0857-26-7200  
氷ノ山自然ふれあい館 響の森 電話0858-82-1620

## 参考URL

鳥取県緑豊かな自然課のwebサイトより  
<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=45312>

氷ノ山自然ふれあい館のwebサイトより  
<http://www.hibikinomori.gr.jp/>

## 平成25年度 鳥取県環境白書

### 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-1 環境教育・学習の推進

## 18 鳥取次世代エネルギーパーク設置事業

### 施策

#### 1 事業の目的

本県では、豊かな自然や変化に富む地形を活かして、太陽光、風力、水力、バイオマスといった多様な再生可能エネルギーを生み出す施設が県内に数多くあることから、県全体をひとつの次世代エネルギーパークと見立て、経済産業省の認定を受けるとともに、エネルギーパークの各施設を見学するモニターツアーを県内外の環境に関心の高い子ども達や保護者にアピールすることで、環境学習や社会科見学コースとしての定着を図る。

#### 2 事業の内容

今年度中に経済産業省の「次世代エネルギーパーク」の認定を受ける。  
更に、これを契機に、本県が再生可能エネルギーの導入先進地であることを県内外にアピールするとともに、本県の緑豊かな自然をPRし、とっとりグリーンウェイブ推進の機運を高めるため、県内外の子ども達や環境事業関係者を対象としたモニターツアーを実施する。

#### 3 事業の現状及び課題

各施設の設置者と連携して、施設見学の受け入れ体制を整備することが必要。  
平成25年度に開催されるエコツーリズム国際大会や全国都市緑化とっとりフェアとも連携し、とっとりグリーンウェイブ推進の機運を高める。

### 実績

モニターツアーの実施  
対象者 鳥取県環境推進企業協議会会員、とっとりエコサポーターズ、  
とっとり環境教育・アドバイザー  
参加人数 25人  
内容 とっとり自然環境館、王子製紙、俣野川発電所のガイド

### 連絡先

環境立県推進課 エネルギーシフト戦略室 (0857)26-7895

### 参考URL

## 平成25年度 鳥取県環境白書

### 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-2 企業・家庭における環境配慮活動の推進

## 01 県民エコライフ推進事業

### 施策

#### 1 事業の目的

東日本大震災を契機としたエネルギー政策の見直しに伴い、エネルギー・資源使用の一層の合理化などによる温室効果ガス削減の取組が必要とされている中、温室効果ガスの排出量は、企業・運輸部門と比べ、家庭部門が高い率で増加しており、低炭素社会に向けたライフスタイルの変革が求められている。

このことから、家庭部門の温室効果ガスの発生抑制が急務となっており、県民一人ひとりが環境問題を自ら考え、自ら実践するとっとりスタイルのエコライフを実現するため、コンパクトな地域性を活かし、県民の生活に根づいたきめ細やかな施策の推進、家庭・企業・学校と連携し、県民運動的なエコライフの実現を目指す。～エコを生活習慣へ～

#### 【家庭部門のCO<sub>2</sub>削減目標】

2014年度に2010年度比11.4%削減

#### 2 事業の内容

##### 1 県民みんなで取り組むエコアクション事業

##### (1) 身近なエコアクションの推進 <日々の生活での意識づけ>

とっとりCO<sub>2</sub>ダイエット作戦の定着

詳細は、「とっとりCO<sub>2</sub>ダイエット作戦事業」参照のこと。

##### (2) ノーレジ袋の推進 <シンボリックな取組>

詳細は、「ノーレジ袋推進事業」参照のこと。

##### (3) 小学校と連携したエコアクションの推進 <エコを生活習慣へ～子どもへの意識づけ>

日常生活でエコアクションの実践ができる小学生を育成するため、教育委員会と連携して、次の事業を実施。

#### ○エコアイデアコンテストによる展開

・リサイクル工作コンテストは、県内小学生の夏休みの楽しみとして定着。

・この学校とのパイプを活用し、他の環境テーマ(マイバック、節電等)の学校への浸透を図る。

・コンテストは、マイバックイラスト部門を創設。

・募集要項にマイバック、節電等の取組を掲載し、小学生とその家庭にPR。

#### ○モデル校への出前教室による展開

・家庭で取り組んでほしいエコアクションを示した「エコ活ノート」を作成し、夏休み前にモデル校に、とっとり環境教育・学習アドバイザーを派遣し出前教室を実施。

・モデル校候補:三朝東小、崎津小等3校程度(公募)

・出前教室は、「鳥取次世代エネルギーパーク設置事業」と連携し、エネルギーパークの視察研修等も組み込む。

##### 2 見える化によるエコアクション加速化事業

##### (1) おうちで節電がんばろうキャンペーンの実施

電力需要の増える夏季から冬季の家庭での節電を促すため、電気使用量が前年比5%以上削減できた家庭に毎月抽選で県産品等をプレゼントするキャンペーンを実施する。

・期間:平成25年6月～翌年2月

##### <H24実績>

7月～9月に前年比10%削減ができた家庭を対象にイベント会場で抽選会を実施

参加人数： 74名                      期間： 7月～9月  
削減量： 16, 225kWh                  削減率： 21%

(2)エコドライブの推進  
急発進・急加速を控えることで12%のCO<sub>2</sub>削減、アイドリングストップで44%のCO<sub>2</sub>削減が可能。

<参考>

10分間のアイドリングで、130cc程度の燃料を消費する。

○エコドライブシミュレーターの導入

エコドライブシミュレーターを購入し、その管理を地球温暖化防止活動推進センターに委託。交通安全、環境等のイベントで活用する。

<県内イベントでの実施及び市町村への貸出し>

30箇所450人想定(1箇所15人、所要時間:20分/人)

○エコドライブキャンペーンの実施

環境家計簿わが家のエコ録を改修。エコドライブの項目を追加し、エコドライブ実施項目をチェック、実績を入力した県民を対象に県産品等をプレゼント。

### 3 事業の現状及び課題

・平成24年9月スタートのとっとりCO<sub>2</sub>ダイエット作戦は、平成24年12月時点で725店舗が協賛。

⇒とっとりCO<sub>2</sub>ダイエット作戦については、未加入が多い業種を中心に1,000店舗を目指し、開拓を強化する。

・平成24年10月スタートの東部地域でのレジ袋無料配布中止により、東部地域の辞退率は85.4%に上昇(対前月比+40.1%)。

⇒ノーレジ袋については、東部地域でレジ袋無料配布中止が始まり、一定の成果を得た。中西部地域のレジ袋辞退率(30%台)の上昇に向け、引き続き取組を行っていく。

・うちエコ診断の診断員養成により、平成24年11月時点で診断員が41名に増加(平成23年度から+27名)。診断件数175件(平成23年度から+51件)。

⇒うちエコ診断の受診機会拡大をより一層図っていく。

・おうちで節電がんばろうキャンペーンは、3ヵ月間の取組で74名が参加。対前年比16,225kWh削減。

⇒おうちで節電がんばろうキャンペーンの実施期間を拡大することで、より多くの県民により多くの期間、節電の意識啓発・実践を促す。

### 実績

・とっとりCO<sub>2</sub>ダイエット作戦協賛店舗数は、平成25年度末で1,011店舗(平成24年度末767店舗)となり、1,000店舗登録の目標を達成した。また、県民への事業周知と協賛店舗のPRのため、複数店舗の利用者に抽選で景品を進呈する一周年記念ラリーを実施した。(応募数:326口)

・エコアイデアコンテストに県内135校中111校から計873点の応募があり、多くの児童がエコを考えるきっかけになった。また、学校での環境教育の機会の提供を図るため、試行的に実施した北条小学校でのエコ活ノート出前教室では児童のエコ活の実践につながるとともに、出前教室で出た課題等を整理し、平成26年度からの本格実施につなげた。

・おうちで節電がんばろうキャンペーンには、320件の応募があり(前年対比170件増)、応募者平均16.8%の電気使用量が削減された。

### 連絡先

生活環境部環境立県推進課環境実践推進担当 電話:0857-26-7875

### 参考URL

# 平成25年度 鳥取県環境白書

## 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-2 企業・家庭における環境配慮活動の推進

### 02 地球温暖化対策の推進

#### 施策

##### 1 事業の目的

本県における地球温暖化対策を総合的かつ計画的に推進するため、「鳥取県地球温暖化対策条例」の趣旨、規定に基づき、温室効果ガスの排出抑制等を促進するための措置を講ずる。

##### 2 事業の内容

- (1) 条例に基づく県全体の温室効果ガスの削減目標等の「対策計画」の運用
- (2) 特定事業者(温室効果ガスを多量に排出する事業者)から提出される「取組計画」の受付、内容確認及び公表

##### 3 事業の現状及び課題

- 地球温暖化対策の一層の推進を図るため、平成21年3月に鳥取県地球温暖化対策条例を制定。
- 平成24年3月に、条例に基づく県全体の温室効果ガスの削減目標等の「対策計画」(平成23年度～平成26年度)を策定。
- 2014年度(平成26年度)の県内の二酸化炭素排出量を、基準年(1990年)に比べて15.1%削減するという目標を設定。2010年度(平成22年度)は基準年(1990年)に比べて7%削減した。
- 家庭や業務部門での二酸化炭素排出量は基準年に比べて大きく増加しており、引き続き家庭や事業所における省エネルギー等の対策の推進が必要。
- 鳥取県地球温暖化対策条例に基づく特定事業者(原油換算エネルギー使用量1,500kl以上の事業者)は平成25年度末で71事業者。
- 特定事業者は、温室効果ガス削減のため3カ年の「取組計画」を作成し、県へ提出。計画を基に年度ごとに「達成状況報告」を報告する必要がある。

#### 実績

- 鳥取県地球温暖化対策条例に基づく特定事業者は、平成25年度末で71事業者。H22～24計画事業者は、平成24年度が計画期間の終期であり、合計では基準年度(平成21年度)に比べて温室効果ガスを3.5%削減し、目標の1.1%削減を上回った。
- なお、2010年度(平成22年度)は、二酸化炭素排出量が基準年(1990年)に比べて6.5%削減された。

		H21	H22	H23	H24	目標	
取組計画(H22～24) 67事業者(基準年度H21)	CO2排出量 (トン-CO2)	788,098	837,809	788,016	760,866	H24	779,049
	増減率(%) 対基準年度比	(基準年度)	6.3	△ 0.0	△ 3.5		△ 1.1
取組計画(H23～25) 7事業者(基準年度H22)	CO2排出量 (トン-CO2)		104,079	100,533	92,836	H25	102,000
	増減率(%) 対基準年度比		(基準年度)	△ 3.4	△ 10.8		△ 2.0
取組計画(H25～27) 64事業者(基準年度H24)	CO2排出量 (トン-CO2)				743,954	H27	736,133
	増減率(%) 対基準年度比				(基準年度)		△ 1.1

#### 連絡先

生活環境部 環境立県推進課 環境実践推進担当 電話0857-26-7874, 7875

## 参考URL

鳥取県環境立県推進課のwebサイトより  
「鳥取県地球温暖化対策条例」

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=101732>

# 平成25年度 鳥取県環境白書

2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開  
2-2 企業・家庭における環境配慮活動の推進

## 03 環境にやさしい県庁率先行動計画の推進

### 施策

#### 1 事業の目的

県が、自らが一つの事業者・消費者としての立場から環境に配慮した事務及び事業を率先して実践し、環境への負荷の低減を図るとともに、市町村、事業者、県民の行う自主的な取組を促進する。

#### 2 事業の内容

平成23年8月に「環境にやさしい県庁率先行動計画(第4期)」を策定した。本計画は、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく地方公共団体実行計画として位置付けており、この計画に基づき、県のすべての機関が、二酸化炭素排出量の削減、ゴミの減量化、グリーン購入等の環境に配慮した事務に取り組んでいる。  
また、グリーン購入については、「鳥取県グリーン購入基本方針」に基づき、判断基準に適合する物品等の優先購入を推進。

#### 3 事業の現状及び課題

平成23年8月に「環境にやさしい県庁率先行動計画(第4期)」を策定し、平成27年度までの5ヵ年計画として運用を実施している。  
本計画の策定にあたっては、「エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)」の改正により県組織が省エネ法の対象になったことから、対象組織等の整合性、取組の拡充、形骸化した事務の軽減化等の見直しを行った。

### 実績

平成23年8月に「環境にやさしい県庁率先行動計画(第4期)」を策定し、平成27年度までの5ヵ年計画として運用を実施している。

<環境にやさしい県庁率先行動計画の数値目標 と 平成25年度 環境にやさしい県庁率先行動計画の達成状況>

温室効果ガス排出量の削減
目標 平成27年度までに、対象範囲の温室効果ガス排出量を、基準年度(平成21年度)比で8%削減する。
平成25年度実績 62,677tCO <sub>2</sub> 平成21年度(基準年)排出量:52,455tCO <sub>2</sub> 19.5%増加
可燃ゴミの排出量削減
目標 平成27年度までに、対象範囲の可燃ゴミの排出量を、基準年度(平成21年度)比で20%削減する。
平成25年度実績 468,439kg 平成21年度(基準年)排出量:520,188kg 9.9%削減
コピー用紙購入量の削減

平成27年度までに、対象範囲の用紙購入量を、基準年度(平成21年度)比で10%削減する。

平成25年度実績 188,184kg  
平成21年度(基準年)排出量:196,268kg  
4. 1%削減

#### グリーン購入の推進

鳥取県グリーン購入基本方針により策定する調達方針に定める調達目標「用途上やむを得ない理由がある場合を除いて、判断基準に適合しない物品の購入を一切行わない」を達成している。

## 連絡先

総務部 総務課 総務企画担当 電話0857-26-7773

## 参考URL

「環境にやさしい県庁率先行動計画」

<http://www.pref.tottori.lg.jp/211600.htm>

「グリーン購入に関する情報」

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=17855>

## 平成25年度 鳥取県環境白書

### 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-2 企業・家庭における環境配慮活動の推進

## 04 ライトダウン推進の取組

### 施策

#### 1 事業の目的

環境省では2003年から地球温暖化防止のため、例年夏至～七夕の時期に、全国のライトアップ施設や家庭での消灯を呼びかける「CO2削減／ライトダウンキャンペーン」を実施している。本県でも、県民や企業に対する省エネルギー活動推進の普及啓発を目的として、この取組みに参加している。

#### 2 事業の内容

<夏至>

- ライトダウンイベントを県庁で開催  
職員一斉退庁を実施(6月21日)19:00～



#### 3 事業の現状及び課題

平成25年度は、夏至の日に午後7時以降の県庁舎の一斉消灯を行うとともに、県庁舎ロビーでミニコンサートを開催した。啓発イベントを引き続き開催し、地球温暖化問題を自然体で取組めるよう意識啓発を行う必要がある。

### 実績

平成25年度は、夏至(6月21日)に県庁舎の時間外一斉消灯と併せて、庁舎ロビーにて、ミニコンサートを開催した。県庁舎の時間外一斉消灯の結果、通常日に比べて、電気使用量が約16.3%(386kWh)の削減となった。

### 連絡先

生活環境部 環境立県推進課 環境実践推進担当：電話0857-26-7874

### 参考URL

<http://www.pref.tottori.lg.jp/169678.htm>

# 平成25年度 鳥取県環境白書

## 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-2 企業・家庭における環境配慮活動の推進

### 05 企業立地事業補助金

#### 施策

##### 1 事業の目的

企業立地事業を行う者に対し助成することにより、県内における企業の立地の促進及び雇用機会の拡大を図り、もって、県内の経済の活性化に資する。

##### 2 事業の内容

<補助制度の概要>

県内の工業団地等に新增設を行う場合が対象

区分	投資額	新規常用雇用者数	補助率	限度額	摘要
製造業	1億円超 (県内中小企業3千万円超)	10人以上 (県内中小企業3人以上)	10%	5億円	土地代、リース・賃借料も対象。
		30人以上	15% (20億円超部分)	30億円	
自然科学研究所・技術者研修所	3千万円超	技術者等5人以上 (県内中小企業3人以上)	30%	10億円	
ソフトウェア業・機械設計業・デザイン業・研究開発型企業・コンテンツ制作業	3千万円超	技術者等5人以上 (県内中小企業3人以上)	10%	10億円	
情報処理・提供サービス業	3千万円超	20人以上(含パート)	10%	2億円	
知事特認加算 (環境関連事業の加算のみ記載)	二酸化炭素の削減に効果がある環境関連の技術を用いた製品等の製造に関する事業を行う場合		5%	10億円	

※ 製造業において、二酸化炭素の排出削減効果のある設備に対しては、補助率を当該設備に係る投下固定資産額の1/3とする。(限度額 2億円)

##### 3 事業の現状及び課題

従来から、県外企業の鳥取県への進出、県内企業の新増設を積極的に支援し、県内での投資促進、雇用拡大を図っているところである。

厳しい経済環境が続く中、企業のニーズにあわせて要件緩和を行ったり、県の経済再生成長戦略に沿って制度の拡充等を行ってきた。

中小企業においては、設備投資が雇用増に結びつかない場合もあり、いかに両方を実現するかが課題となっている。

#### 実績

平成25年度の県外企業誘致及び県内企業新増設実績  
県外企業誘致数 13件 (雇用計画数 1,021人)  
県内企業新増設数 30件 (雇用計画数 821人)

#### 連絡先

商工労働部 立地戦略課 電話0857-26-7220

## 参考URL

鳥取県立地戦略課のwebサイトより

<http://www.pref.tottori.lg.jp/hozyokin/>

# 平成25年度 鳥取県環境白書

## 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-2 企業・家庭における環境配慮活動の推進

### 06 とっとりCO2ダイエット作戦事業

#### 施策

##### 1 事業の目的

県民が自ら積極的に環境配慮行動を進めるための経済的インセンティブとして、協賛店舗からサービス提供を受けることにより、地球温暖化防止と循環型社会づくりに向けた県民一人ひとりの機運の醸成を目指します。

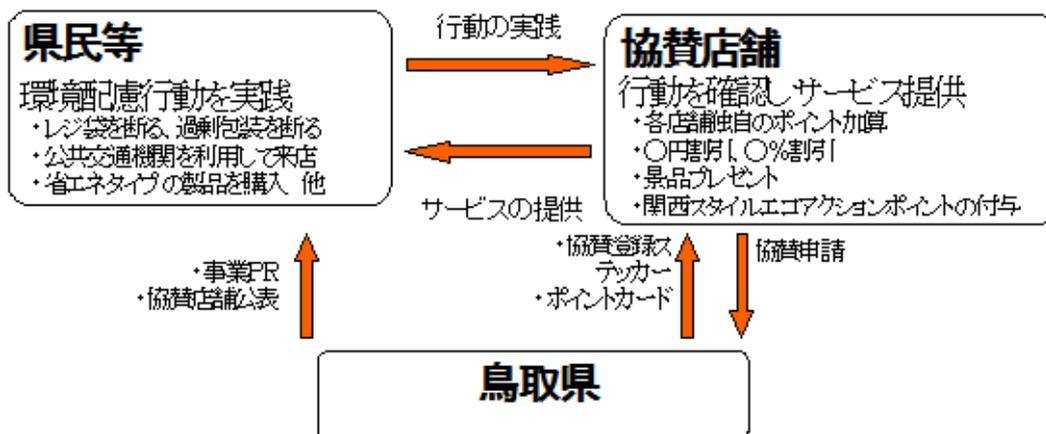
##### 2 事業の内容

県民が日常生活の中で省エネ製品の購入やマイバッグの持参など地球にやさしい環境配慮行動をすることで、協賛店舗から割引、ポイント付与、プレゼント等の特典サービス提供を受けられる仕組みを運用。

積極的な店舗開拓と協賛店舗へのフォローアップを図るとともに、県民参加の普及啓発の展開を目指す。

- 協賛店舗の開拓、フォローアップの実施
- CO2ダイエット作戦一周年記念ラリーの実施

県民の環境配慮行動の意識定着と協賛店舗の気運をを高めるため、ポイントラリーを展開する。



##### 3 事業の現状及び課題

平成25年度末 協賛店舗 1,011店舗

## 実績

- ・平成25年度末で協賛店舗1,011店舗となり、目標の1,000店舗登録を達成。
- ・一周年記念ラリーには、326口の応募があり、協賛店舗の利用促進とPR、県民への事業周知のツールとなった。

## 連絡先

生活環境部 環境立県推進課 環境実践推進担当 電話0857-26-7874

## 参考URL

とっとりCO2ダイエット作戦HP  
<http://co2diet.pref.tottori.lg.jp/>

## 平成25年度 鳥取県環境白書

2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開  
2-2 企業・家庭における環境配慮活動の推進

### 07 みんなで取り組む「わが家のエコ録」推進事業

#### 施策

##### 1 事業の目的

普段の生活でよく使われる携帯電話やパソコンを利用して環境家計簿をつけることができる「わが家のエコ録」システムを展開することにより、二酸化炭素排出量がグラフで確認できたり、エコアイデアを掲載・閲覧できたりすることで、家庭での環境配慮活動を支援する。

##### 2 事業の内容

サイトの管理を行うとともに、利用者の拡大を図る。

###### 【管理内容】

- (1)お知らせ情報  
エコイベント情報等を掲載する。
- (2)エコアイデア情報  
利用者から投稿のあったエコアイデアの内容を管理者画面で確認し、公開する。
- (3)特典情報  
協賛企業が提供するサービスの情報等を掲載する。
- (4)メール送信  
利用者に電気使用量等の実績入力時期が近づいていることを知らせるメールを送る。その他、必要に応じメールを送る。

###### 【エコドライブキャンペーンの実施】

新たにエコドライブメニューを追加し、メニューの利用者から抽選で景品を進呈するキャンペーンを実施。

##### 3 事業の現状及び課題

- ・平成25年度は新たにエコドライブの項目を追加し、キャンペーンを展開することで登録者数を伸ばし、わが家のエコ録本体への利用の波及効果を図った。
- ・登録者数が伸び悩んでおり、利用によるメリットの拡充が必要。

#### 実績

平成25年度は、エコドライブキャンペーンの実施により新規登録者数の増加を図り、新たに71件の登録を行った。

平成24年度末登録件数	平成25年度増加数	平成25年度末登録件数
261件	71件	332件

#### 連絡先

生活環境部 環境立県推進課 環境実践推進担当 電話0857-26-7874

#### 参考URL

鳥取県環境立県推進課のwebサイト「鳥取県環境家計簿『わが家のエコ録』」  
<http://www.ecoroku.jp/>

## 平成25年度 鳥取県環境白書

### 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-2 企業・家庭における環境配慮活動の推進

## 08 戦略的な「環境経営」推進事業

### 施策

#### 1 事業の目的

低炭素社会に向け、県内中小企業等が省エネと生産性向上を両立させる「環境経営」に効果的に取り組むために必要な省エネ診断を支援し、また、省エネ診断に基づく新エネ・省エネ設備の導入に対して助成する。

#### 2 事業の内容

##### (1) 省エネ診断支援事業

年間の原油換算エネルギー使用量が100キロリットル未満の中小企業等に対して、県の委託機関による無料の省エネ診断を実施する。

##### (2) 環境対策設備導入促進補助金

県内中小企業が省エネ診断に基づき取り組む新エネ・省エネ設備の導入に対して助成する。

- ・補助率1/3～1/2
- ・補助金上限500万円

#### 3 事業の現状及び課題

補助事業者からは、設備導入によるコスト削減、生産効率・サービスの向上に加えて、従業員の環境意識の向上効果が報告されており、県内企業の温室効果ガス排出抑制に加えて、企業競争力の強化や地球温暖化に対する意識の高揚にも有効と認識。

一方で、県内企業の省エネ等の環境対策への意識や取組はまだ不十分であり、より広く県内企業に環境経営を浸透させるためには、設備補助に加えて、省エネ計画作り等も支援する必要がある。

### 実績

##### (1) 省エネ診断支援事業

年間の原油換算エネルギー使用量が100キロリットル未満の県内事業者に対して、県の委託機関による無料の省エネ診断を実施した。

○受診企業9社

##### (2) 環境対策設備導入促進補助金

県内中小企業が省エネ診断に基づき取り組む新エネ・省エネ設備の導入に対して補助金を交付した。

○交付実績12件

- ・新エネルギー事業 1件
- ・省エネルギー事業 11件

### 連絡先

商工労働部 立地戦略課 電話0857-26-7564

### 参考URL

## 平成25年度 鳥取県環境白書

### 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-2 企業・家庭における環境配慮活動の推進

## 09 LED産業競争力強化事業

### 施策

#### 1 事業の目的

本県LED産業の更なる競争力強化を図るとともに県内産LED商品のブランド化を促進する。

#### 2 事業の内容

##### (1) LED商品企画支援チームの設置

県内企業がLED商品を開発する際に人材不足や資金不足で企業単独での取組に苦慮している部門(商品企画、光学設計、機構設計)を補完し、企業の競争力ある新商品開発を支援するチームを(財)鳥取県産業振興機構に設置する。(平成24年度～)

##### (2) 鳥取県産LED製品のブランド化推進

県産LED製品の安全性及び品質に関する基準を定め、(地独)鳥取県産業技術センターが実施する統一性能試験をクリアした製品を差別化表示により、LED専門展示会等でPRすることで、市場や消費者における県産LED製品及び県内LED産業の認知度を高める。

また、企業が適確に統一性能試験に対応するための講習や説明会を実施する。

#### 3 事業の現状及び課題

LED関連企業の集積と(地独)鳥取県産業技術センターの光測定・評価設備の充実という本県の強みを活かすため、平成22年にLED戦略研究会を設置し、市場情報提供や取組の方向性の協議を行うとともに、新商品開発補助や新分野参入を目指す研究開発プロジェクト(H23:花き栽培用LED照明の開発)への取組が始まり、県外LED企業の誘致も含め、少しずつ成果が生まれ始めている。

しかしながら、人材や開発資金の不足から、県内企業の新商品開発は思うように進んでおらず、また、新商品を開発しても競合商品との差別化を明確に打ち出せていないため、販路の確保に苦慮しており、商品差別化の必要性や実際の新商品開発を行う上での具体的な課題(商品企画、光学、機構等の設計)について、企業から支援ニーズが寄せられている。

全国的にも多くの自治体がLED産業振興に力を入れてきており、本県の強みを基に市場での地位を確立するためには、競争力ある商品開発とともに、イメージ及び安全性・品質の両面でブランド化を推進することが必要である。

### 実績

OLED商品企画支援チームへの開発支援実績は、8社延べ13件であり、その中で8件が商品化に向けた取り組みが終わったものとして支援終了した。

OLEDの専門展示会であるライティングジャパン2014に出展し、県内産LED製品のPRをすることができた。

OLEDセミナーを実施し、今後の景観照明向けLED照明市場に関する情報提供を行った。

### 連絡先

商工労働部 立地戦略課 電話0857-26-7220

### 参考URL

## 平成25年度 鳥取県環境白書

- 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開  
2-2 企業・家庭における環境配慮活動の推進

### 10 安全なまちづくりLED防犯灯設置促進事業

#### 施策

##### 1 事業の目的

市町村等が行うLED防犯灯の新たな設置を促進し、もって、防犯環境の整備による犯罪のないまちづくりの推進を図ること。

##### 2 事業の内容

「市町村が、自らLED防犯灯を新設するのに要する経費」及び「自治会や町内会等がLED防犯灯を新設する経費に対して実施する市町村の間接補助金」の3分の1を補助する。

(なお、LED防犯灯とは、夜間における犯罪の防止を図るための照明器具で、道路や公園など防犯上必要があると認められる場所に設置するLED灯火及び灯火のカバーをいう。)

##### 3 事業の現状及び課題

###### (1) 現状

監視性を高めることで犯罪機会を抑止する防犯灯は防犯環境整備に有効であるが、平成23年に実施した県政参画電子アンケート調査において、防犯灯の設置要望の意見が多数(111人/164人中)見られるなど、十分に整備されているとはいえない状況であったため、平成24年度に事業を開始した。

###### (2) 課題

事業開始初年度である平成24年度において、この補助金を活用された市町村は全体の約半分の10市町村にとどまっている。

#### 実績

平成25年度実績

市町村	補助金額	設置数	市町村	補助金額	設置数
米子市	547千円	73基	湯梨浜町	102千円	15基
倉吉市	258千円	35基	北栄町	92千円	14基
境港市	1,099千円	49基	琴浦町	95千円	8基
若桜町	11千円	1基	南部町	74千円	8基
八頭町	287千円	30基	伯耆町	1,806千円	149基
智頭町	32千円	5基	日南町	12千円	2基
合計			12市町	4,415千円	389基

#### 連絡先

生活環境部くらしの安心局くらしの安心推進課 電話:0857-26-7183

#### 参考URL

<http://www.pref.tottori.lg.jp/201316.htm>

## 平成25年度 鳥取県環境白書

### 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-2 企業・家庭における環境配慮活動の推進

## 11 LED照明等省エネルギー型設備の県有施設への率先導入事業

### 施策

#### 1 事業の目的

県有施設への率先的な省エネルギーへの取組みを通じ、事業者として環境負荷の低減に努めるとともに、市町村・企業等の省エネへの取組みを促進する。  
県内において各種LED照明の開発が進んでいるところであり、県がニーズを示すことにより、更なる新商品の開発等技術革新を促す。

#### 2 事業の内容

知事部局所管の県有施設及び企業局所管の県有施設に対し、LED照明の導入をはかる。  
平成25年度導入計画(照明灯のLED化 約1600本)

#### 3 事業の現状及び課題

LED照明を中心に県有施設へ導入し、エネルギー使用量削減に努めている。  
気候変動など、やむを得ない事情も多々あるが、時間外削減や照明の間引き、機器の保守点検等の日常のソフト対策と、省エネ設備導入等のハード対策を組み合わせながら、より一層エネルギー使用の合理化に努める必要もある。

### 実績

平成25年度は、県有施設4箇所にLED照明を導入し、従前に比べ年間88,155kWhの電力削減につながった。  
また、県内で設計、製造されたLED照明を導入し、県内企業のLED製造業活性化への一助ともなった。

#### 【LED照明導入施設】

導入施設名	導入本数(本)	執行額(千円)	年間削減 電力量(kWh)	年間削減 電気料金見込(千円)
産業人材育成センター米子校	193	1,003	5410.7	67
とろぎん文化会館	605	3,049	41176.8	513
童謡館	400	1,568	10046.2	125
米子コンベンションセンター	390	4,681	31520.9	393
	1,588	10,301	88154.5	1098

### 連絡先

総務部総務課総務企画担当 電話:0857-26-7773

### 参考URL

## 平成25年度 鳥取県環境白書

### 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-2 企業・家庭における環境配慮活動の推進

## 12 アイドリングストップ推進事業

### 施策

#### 1 事業の目的

自動車の運転者であれば、誰もが身近に取り組むことができるアイドリングストップ運動を県民運動として展開することで、県民や事業者に積極的に実践していただき、エコドライブや自動車の適切な整備を推進し、地球温暖化防止及び環境保全に寄与する。

#### 2 事業の内容

・アイドリングストップ推進事業者等の認証の推進  
鳥取県地球温暖化対策条例に基づく認証制度について広く普及啓発し、より多くの推進事業者等を認証すると共にアイドリングストップをはじめとするエコドライブの一層の普及を目指す。

#### 3 事業の現状及び課題

・県内の東部・中部・西部地区の運転免許センターでアイドリングストップ普及のためのチラシを配布している。  
・アイドリングストップを含むエコドライブの推進のため、各自動車学校で講習を実施している。

	平成24年度末登録者数	平成25年度増加数	平成25年度末登録者数
推進者数	17,422名	830名	18,252名
推進事業者数	1,437事業所 18,998名	3事業所 48名	1,440事業所 19,046名
合計	36,420名	878名	37,298名

### 連絡先

生活環境部 環境立県推進課 環境実践推進担当 電話0857-26-7874

### 参考URL

鳥取県環境立県推進課のwebサイト「アイドリングストップの推進」

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=79232>

## 平成25年度 鳥取県環境白書

### 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-2 企業・家庭における環境配慮活動の推進

## 13 ノーレジ袋推進事業

### 施策

#### 1 事業の目的

地球温暖化防止と循環型社会の構築に向け、環境にやさしいライフスタイルへの転換の第一歩となるレジ袋削減を推進する。

#### 2 事業の内容

- (1) 東部・中部・西部の県内3地域「ノーレジ袋推進協議会」で、レジ袋削減に向けた具体的取組(レジでの声かけ、店内放送、レジ袋無料配布中止等)を推進・強化している。
- (2) 毎月10日を「ノーレジ袋デー」に設定し、店頭キャンペーンを継続実施している。

#### 3 事業の現状及び課題

- ・東部地域のスーパーマーケット事業者において足並みが揃い、平成24年10月1日から実施しているレジ袋無料配布中止により、レジ袋辞退率の大きな上昇が見られた。
- ・東部地域での取組を中・西部地域に波及させる等、県内全域でレジ袋辞退率が上昇する方法を検討する。
- ・平成25年10月に「レジ袋県民大会(仮称)」として講演会・シンポジウムを開催し、消費者の環境意識のさらなる醸成を図る。



### 実績

ノーレジ袋推進シンポジウムを実施し、参加した多くの県内事業者や消費者に、誰もが身近に取り組める環境配慮活動としてのマイバッグ運動について意識づけた。(シンポジウム参加者約370名)なお、平成26年3月時点の各地区のレジ袋辞退率は、東部地区 87.7%、中部地区 32.7%、西部地区 43.6%と西部地区では昨年同月から約8%上昇した。

#### ○ノーレジ袋推進シンポジウムの実施

実施日 平成26年10月20日

対象者 県内の消費者団体や事業者等

参加人数 370人

内容 講演会の実施パネルディスカッション、県内ブランドバックメーカーとコラボしたマイバックの

披露

## 連絡先

生活環境部 環境立県推進課 環境実践推進担当 電話0857-26-7874

## 参考URL

鳥取県環境立県推進課のwebサイト「ノーレジ袋推進の取組」

<http://www.pref.tottori.lg.jp/178899.htm>

## 平成25年度 鳥取県環境白書

### 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-2 企業・家庭における環境配慮活動の推進

## 14 鳥取エコハウス推進事業

### 施策

#### 1 事業の目的

本県の気候・風土等に適し、県産材を多用した鳥取県型環境配慮住宅(鳥取エコハウス)の規格型住宅(プロダクト住宅)を開発し、県内工務店・建築家が参加できる仕組みを構築することで、消費者が安心して購入できる環境にやさしい住宅の普及を図ることにより、環境負荷の低減に配慮した住宅づくりを推進する。

#### 2 事業の内容

○プロダクト住宅普及促進委託  
鳥取エコハウス推進協議会が行う鳥取エコハウスのプロダクト住宅の普及、販売に向けた活動に対して支援を行う。  
平成24年度に作成した、プロダクト住宅を体感できるモデルルーム(組立移動式)を、県内外で開催される住宅フェアなどでPRするとともに、家具などの地場産業者の製品の展示する。

#### 3 事業の現状及び課題

鳥取エコハウス推進協議会において、鳥取エコハウスの目指す家を検討し、それを実現するための基本ルールの設定、県産材の安定供給とコストダウンを図るための県産材の規格化ルール及びモデルプランを設定。  
・今後鳥取エコハウスの普及促進に向けて住宅取得者や地元工務店にイメージ、コスト、魅力などを分かりやすく提示し、プロダクト住宅の普及推進と魅力ある商品を増やすことが必要。

### 実績

- ・木の住まいフェアにおいて、エコハウスプロダクト住宅モデルルームの展示を行い、その良さを体感してもらう取組を行った。(期間中延べ約3,300人来場)
- ・エコハウスの規格材を活用した木造応急仮設住宅を試験的に建設(岩美町、智頭町)することにより、大規模災害時に資材調達を容易にする環境の構築を推進した。
- ・鹿野町にエコハウス第1号物件が完成し、7月に構造見学会、9月に完成見学会をそれぞれ開催した。

### 連絡先

生活環境部くらしの安心局住まいまちづくり課 企画担当 電話0857-26-7398

### 参考URL

「鳥取エコハウスSITE」Webサイト  
<http://tottori-site.com/about.html>

## 平成25年度 鳥取県環境白書

### 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-2 企業・家庭における環境配慮活動の推進

## 15 環境にやさしい木の住まい助成事業

### 施策

#### 1 事業の目的

県産材の需要拡大、伝統技術・文化の継承、地場産業の振興及び環境にやさしい住まい作りの推進を図るため、一定量以上の県産材を活用して住宅の新築又は改修を行う場合に県産材の使用量等に応じた助成を実施。

#### 2 事業の内容

[新築に対する助成]

県産材を15m<sup>3</sup>以上使用して木造一戸建住宅を建設又は購入する場合、次の助成を実施

○県産材活用への助成

県産材使用量1m<sup>3</sup>あたり2万円を助成(上限40万円)、県産JAS製材を使用する場合は1m<sup>3</sup>あたり9千円を上乗せ助成(上限18万円)

○伝統技術活用住宅への助成

在来軸組工法の住宅で、次のうち2種以上の伝統技術を活用する場合、定額15万円の助成を上乗せ  
(木材の手刻み加工、外壁下見板張り、左官仕上げ、日本瓦葺き、木製建具)

○環境配慮住宅への助成

環境に配慮した住宅として次の全ての要件を満たす場合は、定額5万円の助成を上乗せ

・戸建住宅の環境性能を評価するシステム「CASBEEとっとり戸建」の評価結果がAランク以上かつ重点評価項目が15点以上

・自然エネルギーを利用する住宅として、以下の(1)から(5)のうち2つ以上を満たすこと

(1) 主要な居室の室内建具は引戸とすること

(2) 主要な居室は2面採光とすること

(3) 主要な居室の庇の出は庇の高さから開口部の下端までの高さの0.3倍以上とすること

(4) 居室の開口部は複層ガラス(3+A6+3)と同等以上の耐熱性能を有すること

(5) 主要な居室の開口部(延面積の30%以上)は真南方向の前後30度の位置に設置すること

○長期優良住宅への助成

長期にわたり良好な状態で使用される住宅として次の全ての要件を満たす場合は、定額10万円の助成を上乗せ

・長期優良住宅の認定を受けた住宅であること

・構造材に県産JAS製材を使用していること

・柱の小径が12センチメートル以上であること

・通し柱が13.5センチメートル以上であること(ただし、住宅の構造上、通し柱を有さないものについては本要件を適用しない)

○履歴情報保管住宅への助成

住宅履歴情報保管サービス機関等と、住宅履歴情報の保管に関する契約を締結する場合、定額2万円の助成を上乗せ

[改修に対する助成]

県産材を0.3m<sup>3</sup>以上使用して一戸建住宅又は共同住宅の改修等を行う場合、次の

助成を実施

○県産材活用への助成

県産材使用量1m<sup>3</sup>あたり2万円を助成(上限20万円)、県産JAS製材を使用する場合は1m<sup>3</sup>あたり9千円を上乗せ助成(上限9万円)

### 3 事業の現状及び課題

助成制度は着実に県下に浸透しており、消費者にとって県産材活用への確かな動機付けとなると共に、木材・住宅関連の地域産業を下支えしている状況。また、伝統技術を活用した場合には上乗せの助成を行っており、伝統技術の継承・職人の雇用創出にも貢献している。

今後の課題として「環境にやさしいすまいづくり」といった観点から、より環境性能の優れた住宅ストックの供給を促していくことが必要。

### 実績

平成25年度の実績

- (1) 県産材活用に対する助成  
県産材を15m<sup>3</sup>以上使用した、1戸建て木造新築住宅493戸(9,365m<sup>3</sup>)に対して交付決定した。
- (2) JAS製材活用に対する助成  
県産JAS製材を使用した住宅470戸(7,716m<sup>3</sup>)に対して交付決定した。
- (3) 伝統技術活用に対する助成  
伝統技術を活用した住宅162戸に対して交付決定した。

### 連絡先

生活環境部くらしの安心局 住まいまちづくり課 企画係 電話0857-26-7408

### 参考URL

鳥取県住まいまちづくり課のwebサイトより

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=3589>

## 平成25年度 鳥取県環境白書

- 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開
- 2-2 企業・家庭における環境配慮活動の推進

### 16 公営住宅ストック総合改善事業

#### 施策

##### 1 事業の目的

県営住宅ストックの長期利用により、LCC(ライフサイクルコスト)の縮減と建替えに伴う環境負荷の低減を図る。  
なお、省エネルギー改修する場合は、住生活に伴う二酸化炭素の排出を抑制(LCC O2を低減)する。

##### 2 事業の内容

機能低減が著しい昭和50年代建設のRC4階建て階段室型住棟について改善事業を実施する。

全面的改善事業:概ね20戸以上の住棟について、エレベーターを設置する等バリアフリー化すると共に、内装・設備をリニューアルする。

エコ改善事業:概ね20戸未満の住棟について、省エネルギー(断熱)改修すると共に、設備・配管改修を実施する。

平成25年度整備予定団地

全面的住戸改善:永江団地(5期)、東浜団地(1期)

エコ改善事業:末恒第1団地(1期)、永江団地(1期)

##### 3 事業の現状及び課題

全面的改善事業のさらなるコスト縮減及び新規事業であるエコ改善の円滑な事業実施(平成25年度事業)が課題となっている。

改修事例(県営住宅ひばりが丘団地S52-3棟)



改修前



改修後



#### 実績

平成25年度の実績

- 全面住戸改善実施団地
- ・工事の完成

- 末恒第1団地(4期)、永江団地(5期)
- ・工事に着手  
東浜団地(1期)
- ・設計に着手  
永江団地(6期)、緑町第1団地(1期)
- **エコ改善実施団地**
- ・工事の完成  
末恒第1団地(1期)
- ・工事の着手  
永江団地(1期)
- ・設計に着手  
永江団地(2期)、ひばりが丘団地(1期)

## 連絡先

生活環境部くらしの安心局住まいまちづくり課 計画担当 電話0857-26-7412

## 参考URL

鳥取県くらしの安心局住まいまちづくり課のwebサイトより  
「くらしの安心局住まいまちづくり課」

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=3589>

## 平成25年度 鳥取県環境白書

### 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-2 企業・家庭における環境配慮活動の推進

## 17 鳥取県環境立県推進功労者知事表彰

### 施策

#### 1 事業の目的

県内において環境保全のための実践活動、技術の開発・普及、教育啓発活動、廃棄物の適正処理の確保又は4つのR(廃棄物の発生抑制(Refuse)、削減(Reduce)、再利用(Reuse)又は再生利用(Recycle))の推進等を行い、環境立県の推進に顕著な功績のあった個人又は団体(以下「個人等」という。)を顕彰することにより、県内における環境活動を一層推進する。

#### 2 事業の内容

表彰は、次の功績を有する個人等について行う。

- (1) 環境保全のための実践活動に関する功績  
広域的、先導的若しくは長期的(表彰しようとする年度の4月1日の時点(以下「基準時点」という。)で5年以上)な環境保全活動、環境美化活動若しくは緑化推進活動を行い、又は環境行政に協力若しくは従事したこと。
- (2) 環境保全のための技術等の開発・普及に関する功績  
省エネルギー技術、温室効果ガスの排出低減技術その他の環境保全のための技術若しくはそれらの技術を用いた製品の開発若しくは研究、又はそれらの先導的若しくは大量の導入若しくは普及啓発を行ったこと。
- (3) 環境保全のための情報発信・教育啓発に関する功績  
基準時点で5年以上にわたり環境保全のための情報の発信、又は学校、地域、企業等における教育啓発活動を行ったこと。
- (4) 廃棄物の適正処理の確保又は4つのRの推進に関する功績  
ア 廃棄物処理業者、浄化槽清掃業者又は廃棄物排出事業者であって、基準時点で県内において1年以上活動している次のいずれかに該当する事業所を有すること。  
（ア）廃棄物の適正処理の確保又は4つのRの推進に関し、他の模範となる取組を行い、顕著な功績があった事業所  
（イ）廃棄物の適正処理の確保又は4つのRの推進に係る新しい技術若しくは製品の開発に顕著な功績があった事業所  
イ 基準時点で10年以上、県内において廃棄物の収集運搬業又は処分業に従事し、廃棄物の適正処理の確保に顕著な功績のあった個人。  
ウ 基準時点で5年以上、県内で廃棄物の適正処理に関する事業を行う公益法人その他これに準ずる団体に勤務し、その発展に顕著な功績があった個人。  
エ その他県内において廃棄物の適正処理の確保又は4つのRの推進に尽力し、社会的貢献が顕著で他の模範になると認められる団体又は個人。

#### 3 事業の現状及び課題

環境美化、廃棄物の適正処理に対する表彰の他には、環境関連の顕彰制度はなかったため、平成18年度に自然環境保全活動、地球温暖化防止活動、環境教育活動、省エネ技術の開発、導入等といった環境全般にわたる顕彰制度を創設した。

平成24年度には、鳥取県循環型社会推進功労者知事表彰を統合し、環境全般に関する表彰制度に改正した。

### 実績

平成25年度に表彰を受けられた方及び活動概要

■平成25年10月29日表彰

(1)鳥取県連合婦人会 会長 田中 朝子氏

【表彰分野】

4つのRの推進

【概要】

- ・昭和42年設立以来、環境問題を活動テーマに掲げ、資源回収(古紙、割り箸)、清掃活動、生ごみコンポスト、廃油せっけん作り、マイバック運動等時代の課題を先取りした活動に取組み、各郡市・地区へ活動を伝え広げる役割を果たす。
- ・毎月10日の「ノーレジ袋デー」には行政とチラシを配布。「ノーレジ袋推進協議会」に賛同団体として参加し、平成24年10月からの東部地区におけるレジ袋無料配布中止の実現に尽力。
- ・近年では、生ごみの水切り・段ボール堆肥化、ミックスペーパーの分別徹底等の4R実践活動について、ごみの減量効果を実証。家庭での取組方法を紹介した「ごみ減量・リサイクル実践マニュアル」を県と協力して作成。
- ・これらの取組を会員1,065人(H24年度)が実践するとともに、学習会を開催したり、研修会に講師として参加するなど会員外への4R実践活動の普及啓発にも尽力。

(2)三光株式会社 代表取締役 三輪 陽通氏

【表彰分野】

廃棄物の再資源化技術の先導的導入

【概要】

- ・昭和56年に産業廃棄物処理事業を開始。廃棄物の適正処理及びリサイクルの推進に貢献した功績により平成17年度に知事表彰を受賞し、他の模範となる取組を継続中。
- ・今回表彰の功績としては、子会社である(株)ウエストバイオマスの下水汚泥等の炭化施設の成形炭の製造において隣接する焼却炉の廃熱を有効利用し、高効率な熱回収システムを構築する等省エネ技術を取り入れた廃棄物の再資源化技術を先導的に導入したこと。(民間主導では国内初)
- ・焼却施設の余剰蒸気を利用した発電で温室効果ガスの削減へ取組むとともに、国内クレジット制度の認証を取得(産廃業者国内初)し、取得クレジットを本県等に寄付し、県の環境行政に協力。
- ・廃プラ等原料の固形燃料について、JIS規格の認証取得(中国地区初)。

(3)日南の水をまもる会 会長 山田 和也氏

【表彰分野】

環境保全のための普及啓発実践活動

【概要】

- ・平成元年に「森林荒廃や洗剤・汚水等の流入により日野川は魚も住めないような川になろうとしている」という危機感のもと日南町の有志により結成。会員は24名。
- ・川遊びを通して日野川の自然を守る活動の輪を広げるイベント「日野川源流かっぱまつり」や日野川に関心を持ってもらうよう始めた「大西満杯争奪鮎友釣り大会」を毎年主催し、日野川河川敷の清掃活動を年2回実施するなど地域における啓発活動や環境美化活動を継続。
- ・「日野川源流かっぱまつり」では、100名以上の参加があり、河川敷の清掃、子どもたちによる魚のつかみどり、子どもたちへの日野川の自然環境学習会等楽しみながら環境教育を実践。
- ・「大西満杯争奪鮎友釣り大会」は、大西満氏(釣り歴50年超)に出会い、日野川に関心を持ってもらうため始めたもの。参加者は川原のゴミを最低1個持ち帰る。

(4)福田 紀生(ふくだ のりお)氏

【表彰分野】

環境保全のための普及啓発実践活動

【概要】

- ・NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部前支部長(H18~H25.6月)。支部の会員数は195名(H25.5月現在)。
- ・日本野鳥の会主催の定例探鳥会や一般県民向けの探鳥会で講師を務め、野鳥保護の普及啓発に貢献。(過去20年間で参加者は約6,000人)
- ・永年培った野鳥に関する知見を生かし、鳥取県環境審議会委員や湖山池環境モニタリング委員会委員を務めるほか、県主催の愛鳥週間ポスターコンクール等の審査員を務めるなど、県の環境行政に協力。
- ・自然観察会指導員(県)、自然公園指導員(環境省)として、一般県民に対し自然保護全般に関する普及指導を実施するなど環境保全活動に従事。
- ・とっとり環境教育・学習アドバイザーとして、東部地域の小学校での環境学習講師を務めるなど、環境教育へ参画。

■平成26年2月10日

(1) 智頭石油株式会社 代表取締役社長 米井 哲郎氏

【表彰分野】

環境保全のための技術の普及（モーダルシフトの推進における電気自動車の大量導入と充電設備の先導的導入）

【概要】

・平成22年7月から鳥取県庁と「官民EVカーシェアリング」をスタート。（平日は県庁公用車、土日祝日は一般向けレンタカーとして電気自動車iMiev3台をシェアリング）

・県内初のEVレンタル事業や県内初のEVカーシェアリングサービスを開始するとともに、鳥取県次世代自動車充電インフラ整備ビジョン第1号の充電ステーションとして、新日本海新聞社本社ビル1階屋外駐車場に設置し、平成26年2月3日にEV充電器完成記念式を開催したところ。

・鹿野温泉及び智頭町では、平成26年度に向け、超小型モビリティ実証プロジェクトを計画中である。

・電気自動車の大量導入と充電設備の先導的導入を行い、鳥取県が進めるモーダルシフト（環境負荷が少ない交通手段への転換）の推進に貢献している。（EV導入14台）

\* EV: 電気自動車 (Electric Vehicle 略してEVという。)

\* EVカーシェアリング: 電気自動車の共同使用

(2) 鳥取県自然体験塾 代表 長谷川 浩司氏

【表彰分野】

環境保全のための実践活動（自然体験活動を通じた環境保全のための普及啓発実践活動）

【概要】

・平成18年から、カヌー体験を中心に、シャワークライミング、ラフティングなどの体験活動ツアーを、鳥取県内で実施しており、近年は平成20年に山陰海岸ジオパークに認定されたことを受け、山陰海岸でのカヌー体験を精力的に展開し、体験活動を通じて山陰海岸の自然環境の保全意識を啓発してきた。（岩美町のカヌー体験者数が世界ジオパーク認定前の157名（H21）から、平成25年には1,757名へと飛躍的に増大）

・平成25年に山陰海岸国立公園指定50周年に合わせて、船体が透明なクリアカヌーを導入したところ、高い透明度を誇る海を体感できるとして全国的に話題を呼んだ。

・ガイドの養成や多鯨ヶ池でのカヌー体験プログラムの開発など他団体と連携した新しい企画にも積極的に取り組んでいる。

・山陰海岸ジオパークを始めとした鳥取県内の自然環境の素晴らしさの情報発信、環境保全意識の醸成に大きく寄与している。

(3) フードバンク鳥取 一般社団法人みもぎの会 代表 安田 壽子氏

【表彰分野】

4つのRの推進（福祉施設へのフードバンク活動）

【概要】

・まだ食べられるにもかかわらず廃棄されてしまう食品（いわゆる食品ロス）を無料で引き取り、支援を必要とする団体・個人に提供するフードバンク活動に、平成21年から県内で初めて取り組んでいる。

・日本初のフードバンクであるセカンドハーベストジャパンや近隣の農家や寺院等から、食べられるが廃棄される食品を引き取り、「『もったいない』を『ありがとう』へ」を合言葉に、県内の児童養護施設や母子、障がい者などの福祉施設、生活困窮者へ食品の配達を実施している。

・みもぎの会で取り扱う食品は、金額にして年間800万円にも上り、フードバンクの活動を通じ食品ロスの削減に貢献し、県が進める4つのRの推進に貢献している。

## 連絡先

生活環境部環境立県推進課 環境イニシアティブ担当 電話0857-26-7205

## 参考URL

鳥取県環境立県推進課のwebサイトより

「鳥取県環境立県推進功労者知事表彰制度」

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=65295>

## 平成25年度 鳥取県環境白書

2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開  
2-3 社会システムの転換

### 01 EVタウンの推進

#### 施策

##### 1 事業の目的

CO2削減のための有効な手段の一つである電気自動車(EV)の普及を推進する。

##### 2 事業の内容

(1)EVの導入促進・普及啓発

○公用車としての率先導入

・公用車として県内産EVを率先導入し、CO2の削減を図るとともに、試乗会を適宜開催し、県民や他県へも積極的にPR

○カーシェアリングによる県公用車としての率先利用とEVの体験機会の創出によるPR

・EV3台(平日)の借り上げ

○県内をより安心して走行できる環境の整備

・普通充電器設置への補助を継続し、宿泊施設、コンビニエンスストアなどへの設置を推進

○「充電インフラ整備ビジョン」の策定

・市町村および民間事業者の充電器設置ニーズを調査し、中長期的な整備計画を策定する。

・ビジョンの策定し、国の承認を得て、国の補助制度の活用促進と県独自の補助制度の周知を図りながら、充電インフラの整備促進を図る。

##### 3 事業の現状及び課題

○レンタカー事業者と連携したカーシェアリングによる公用車としての率先利用を行うとともに、インフラ整備のため充電設備に対する補助事業を実施

○平成22年12月に経済産業省の「EV・PHVタウン」の一つとして選定され、岡山県と連携したEVの普及モデルを全国に発信することが期待されている

○平成25年3月末時点で県内の急速充電器は33箇所、普通充電器は55箇所に設置済

○県内のEV登録台数は平成25年3月時点で334台にまで増加

#### 実績

○鳥取空港にEV、PHVレンタカーをモデル的に各1台導入するとともに充電ステーションを整備した。

また、主要観光地である山陰海岸学習館、とっとり花回廊に充電ステーションを整備した。

○鳥取・岡山両県で平成26年5月に鳥取・岡山EV・PHV普及連携プロジェクト実行委員会を設立した。

○平成26年7月末時点で急速充電器は37箇所、普通充電器は65箇所に設置され、充電ステーション整備が促進された。

○県内のEV登録台数は平成26年7月末時点で550台にまで増加

#### 連絡先

生活環境部 環境立県推進課 環境実践推進担当 電話:0857-26-7875

#### 参考URL

経済産業省 EV・PHV情報プラットフォーム

<http://www.meti.go.jp/policy/automobile/evphv/town/state/tottori.html>

鳥取県環境立県推進課のwebサイトより

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=3268>

## 平成25年度 鳥取県環境白書

### 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-3 社会システムの転換

## 02 バイシクルタウン推進事業

### 施策

#### 1 事業の目的

「とっとり環境イニシアティブプラン(平成24年3月31日策定)」に位置づけられているモーダルシフト(交通手段の転換)の推進の一環として、自動車から自転車への転換拡大を進める「バイシクルタウン構想」を策定するとともに、県民・企業の通勤手段等における自転車利用推進を支援する。

#### 2 事業の内容

##### (1) 鳥取県バイシクルタウン構想の策定

「環境イニシアティブプラン」(H24.3策定)に基づき、モーダルシフト(交通手段の転換)を推進する取組の一つとして、自転車・交通機関などの利用促進を図ることとしています。この実現のため、マイカー利用からの転換を図るために必要な施策の方向性を示した「鳥取県バイシクルタウン構想」を策定、公表する。

##### 【目指す将来像】

自転車とクルマが対等な交通手段として、子どもから高齢者まで安全、安心で快適に走行できる自転車利用先進県

##### 【構想の目標】

1. 日常的な通勤や買物での利用をマイカー利用から自転車等へ転換。  
(数値目標)2020年までに、マイカー通勤からの転換者1万人増
2. 観光への自転車利用やレクリエーションとしてのサイクリングの普及・推進。

##### (2) 鳥取県バイシクルタウン構想の推進

##### 〔ハード面の整備〕

##### ・自転車走行空間の確保

⇒ 条例による路肩幅員の拡大、自転車サイン・カラー舗装など

##### ・駐輪場の整備拡充

⇒ 中心駅周辺や駅・バス停など交通結節点への駐輪場整備など

##### ・観光やスポーツへの活用のための環境づくり

⇒ サイクリングコースの路面表示、レンタサイクルの拡充など

##### ・公共交通機関との連携した利便性の向上

⇒ 自転車車載バスの導入、自転車積載可能な鉄道路線拡大など

##### 〔ソフト面の整備〕

##### ・自転車利用のきっかけづくり

⇒ 自転車通勤チャレンジの実施、自転車通勤に関する職場環境の改善など

##### ・ルール、マナーの徹底

⇒ 自転車シミュレーターを活用した交通安全教室の実施など

#### 3 事業の現状及び課題

自転車を重要な交通手段として普及を推進するにあたっての課題

##### 1. 本県の交通事情

・主要幹線道路は12時間当たり10,000台から20,000台の自動車が通行するなど、自転車で路肩の狭い車道を走行する際は危険が伴う。

・駐輪場の整備が十分に進んでいないなど、公共交通機関と自転車との相互の連携がうまく図られていない状況

##### 2. 自転車の走行環境における課題

・多くの方が通勤に利用されている経路上において、幅員が非常に狭い路線がある

・夜間に走行する際に街灯のない箇所がある

・自転車通行が許可された歩道において、歩行者のマナーが遵守されていない状況が多い

##### 3. 利用者ニーズの観点からみた課題

・スポーツサイクリングの拠点やレンタサイクルが設置されているが案内看板など利用者への周知が十分でない状況

・自転車を車載可能な公共交通機関の未整備

### 実績

・平成25年6月に通勤や買物での自転車利用及びレクリエーションとしての自転車利用の推進を図るバイシクルタウン構想を策定。  
・2020年にマイカー通勤から自転車通勤への転換者1万人を目標とし、普段自動車通勤している方に自転車通勤していただく「自転車通勤チャレンジ」(参加者:100名)を実施した。

## 連絡先

生活環境部 環境立県推進課 環境実践推進担当 電話0857-26-7875

## 参考URL

鳥取県環境立県推進課のwebサイトより

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=3268>

## 平成25年度 鳥取県環境白書

### 2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開 2-3 社会システムの転換

## 03 ノーマイカー運動の推進

### 施策

#### 1 事業の目的

通勤に自家用自動車を利用している鳥取県職員の公共交通機関の利用を促進する「ノーマイカー運動」を率先して行うことにより、公共交通手段の維持・確保、排気ガスによる二酸化炭素などの環境負荷の低減、交通渋滞の緩和、交通事故防止等を目指している。

#### 2 事業の内容

- 県職員が可能な日に自家用自動車以外の通勤手段(以下「代替通勤手段」という。)を用いて通勤する運動で、平成10年に開始。
- 所属毎に月一回以上「職場ノーマイカーデー」を設定、また「ノーマイカー運動強化週間」を平成20年より指定。
- ノーマイカー運動実施に伴うCO2削減量等をデータベースにより職員に周知し、参加意識を醸成。
- 県では平成22年に毎週、水、金曜日を県下統一の「エコ通勤の日」に設定。ノーマイカー運動を県が率先垂範することで、県内のエコ通勤の普及啓発に寄与。
- インターネットを使って県内のバス、鉄道の時刻表、最寄りのバス停までの道順等の検索を可能としたバスネットにより、県職員のみならず県民に県内の移動に有用な情報を提供。加えて東部の一部の路線でバスの運行位置をダイヤに反映させるバスロケーションサービスの実証実験も実施中。
- 職員が参加できる環境を整備
  - ・ノーマイカー運動通勤手当、ノーマイカー運動時の時差出勤制度の適用
  - ・パークアンドライド駐車場情報の提供(市町村と連携して無料利用が可能な駐車場情報を提供)
  - ・鳥取市の行う「ノルデ運動」にも参加協力。

#### 3 事業の現状及び課題

[平成24年度の状況]

(1)参加状況

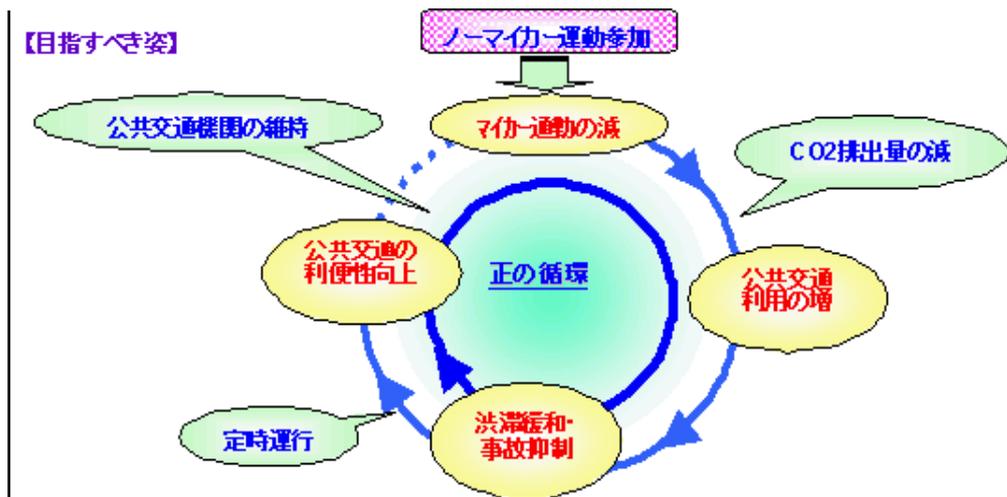
延べ参加人数 2,502人

(2)CO2削減量 15,509kg

※体積換算すると、1,718万リットル

⇒ 杉の木1,108本、森林面積12,407平方メートルが1年間に吸収する二酸化炭素量





## 実績

[平成25年度の状況]

- (1)参加状況  
延べ参加人数 1,395人
- (2)CO2削減量 8,182.4kg  
※体積換算すると、492.3万リットル  
⇒ 杉の木584本、森林面積6,545平方メートルが1年間に吸収する二酸化炭素量

## 連絡先

地域振興部 交通政策課 地域交通担当 電話0857-26-7641

## 参考URL

鳥取県交通政策課のwebサイトより  
「ノーマイカーデーの取組み」

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=11148>

## 平成25年度 鳥取県環境白書

2 NPOや地域・企業などと連携・協働した環境実践の展開  
2-3 社会システムの転換

### 04 とっとりEVカーシェア推進事業

#### 施策

##### 1 事業の目的

新たな交通サービスの創出、新たな生活スタイルの提供(自動車の所有から自動車の利用へ)を目指し、新たなサービス提供による雇用創出につなげる。

##### 2 事業の内容

鳥取県内でEV・PHVを用いて新たに(既の実施している事業者については、拡大して)実施する有料カーシェアリング事業に対して補助金を交付する。

##### 3 事業の現状及び課題

鳥取発次世代社会モデル創造特区がH24年7月25日、国の総合特区に地区指定された。

地域資源・強みと住民ニーズを組み合わせ、次の3つのモデル事業を実施し、地域の課題解決と新事業の創出を図るもの。

- ・商店街の利便性を高めるe-モビリティ交通サービス
- ・再生可能エネルギーによる災害時集落無停電サービス
- ・健康情報を高度利用する健康づくりサービス

モデル事業を具体化するため、規制緩和に関する国との協議、関係者との打合せを行っているところである。

国との規制緩和協議(秋協議)では、今のところ規制緩和に繋がっていないが、継続検討とされた提案、今回協議に挙げなかった提案については、それぞれの課題を整理し、次回の春協議以降において国と協議する。

規制緩和協議と並行して、必要となる予算措置を検討するなど、事業の実現に向けた取組みを展開していく。

さらに、本県総合特区計画をより効果的に展開するため、他自治体の総合特区計画との連携を検討していく。

#### 実績

○とっとりEVカーシェア事業補助金

補助事業の期間：平成25年5月～平成26年3月

概要：EV・PHVによるカーシェアリングの取組を行う事業者に対して補助金を交付した。

補助率・限度額：2/3、車両1台1年当たり2,000千円

実績額：6,401,000円(5台)

#### 連絡先

商工労働部商工政策課 電話：0857-26-7565

#### 参考URL

鳥取県商工政策課のwebサイトより

「とっとりEVカーシェア推進事業」

<http://www.pref.tottori.lg.jp/211899.htm>